

有 価 証 券 報 告 書

事業年度 自 2018年4月1日
(第110期) 至 2019年3月31日

 **愛知電機株式会社**

有価証券報告書

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

第110期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	9
第2 【事業の状況】	10
1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	10
2 【事業等のリスク】	10
3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	11
4 【経営上の重要な契約等】	14
5 【研究開発活動】	14
第3 【設備の状況】	15
1 【設備投資等の概要】	15
2 【主要な設備の状況】	15
3 【設備の新設、除却等の計画】	16
第4 【提出会社の状況】	17
1 【株式等の状況】	17
2 【自己株式の取得等の状況】	19
3 【配当政策】	20
4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	21
第5 【経理の状況】	33
1 【連結財務諸表等】	34
2 【財務諸表等】	68
第6 【提出会社の株式事務の概要】	81
第7 【提出会社の参考情報】	82
1 【提出会社の親会社等の情報】	82
2 【その他の参考情報】	82
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	83

監査報告書

内部統制報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2019年6月27日
【事業年度】	第110期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
【会社名】	愛知電機株式会社
【英訳名】	AICHI ELECTRIC CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐 藤 徹
【本店の所在の場所】	愛知県春日井市愛知町1番地
【電話番号】	(0568) 31-1111 (代表)
【事務連絡者氏名】	管理本部経理グループ長 鈴木 祐二
【最寄りの連絡場所】	愛知県春日井市愛知町1番地
【電話番号】	(0568) 31-1111 (代表)
【事務連絡者氏名】	管理本部経理グループ長 鈴木 祐二
【縦覧に供する場所】	愛知電機株式会社 東京支社 (東京都中央区入船三丁目10番9号) 愛知電機株式会社 関西支社 (大阪市北区堂島浜一丁目4番4号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第106期	第107期	第108期	第109期	第110期
決算年月	2015年 3 月	2016年 3 月	2017年 3 月	2018年 3 月	2019年 3 月
売上高 (百万円)	82,084	72,065	74,883	78,232	80,034
経常利益 (百万円)	4,674	4,732	7,231	5,073	4,852
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	2,727	2,880	5,293	3,351	3,109
包括利益 (百万円)	3,996	1,665	4,979	3,891	2,458
純資産額 (百万円)	43,493	44,541	48,484	51,377	53,674
総資産額 (百万円)	87,877	84,907	86,728	88,671	90,156
1株当たり純資産額 (円)	892.91	4,573.49	5,047.29	5,350.33	5,504.79
1株当たり当期純利益 (円)	56.69	299.34	550.80	353.18	327.66
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	48.9	51.8	55.2	57.3	57.9
自己資本利益率 (%)	6.6	6.6	11.5	6.8	6.0
株価収益率 (倍)	7.66	5.48	4.81	9.70	8.45
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,847	7,783	5,968	1,868	6,667
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△4,189	△4,588	△1,908	△2,492	375
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	815	△3,073	△3,952	△2,464	△1,413
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	15,408	15,428	15,205	12,208	17,676
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用人員) (人)	2,187 (219)	2,355 (235)	2,369 (231)	2,397 (226)	2,370 (190)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 2016年10月 1 日付で普通株式 5 株につき 1 株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、1 株当たり純資産額及び 1 株当たり当期純利益については、2016年 3 月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年 2 月16日）等を2019年 3 月期の期首から適用しており、2018年 3 月期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第106期	第107期	第108期	第109期	第110期
決算年月	2015年 3 月	2016年 3 月	2017年 3 月	2018年 3 月	2019年 3 月
売上高 (百万円)	37,584	36,692	39,266	37,453	34,964
経常利益 (百万円)	3,446	4,066	5,717	3,933	3,005
当期純利益 (百万円)	2,170	2,625	4,038	3,154	1,851
資本金 (百万円)	4,053	4,053	4,053	4,053	4,053
発行済株式総数 (株)	48,252,061	48,252,061	9,650,412	9,500,000	9,500,000
純資産額 (百万円)	31,098	32,960	36,182	38,632	39,467
総資産額 (百万円)	50,368	52,279	53,677	54,411	54,265
1株当たり純資産額 (円)	646.06	3,423.82	3,810.11	4,068.32	4,156.30
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	11.00 (5.00)	13.00 (6.00)	72.00 (7.00)	85.00 (40.00)	90.00 (45.00)
1株当たり当期純利益 (円)	45.09	272.75	419.96	332.15	195.02
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	61.7	63.0	67.4	71.0	72.7
自己資本利益率 (%)	7.2	8.2	11.7	8.4	4.7
株価収益率 (倍)	9.63	6.01	6.31	10.31	14.20
配当性向 (%)	24.4	23.8	23.8	25.6	46.1
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用人員) (人)	745 (113)	748 (123)	762 (103)	852 (93)	840
株主総利回り (比較指標：配当込み TOPIX) (%)	146.9 (130.7)	116.2 (116.5)	189.4 (133.7)	246.2 (154.9)	208.9 (147.1)
最高株価 (円)	500	460	2,830 (349)	3,795	3,510
最低株価 (円)	290	300	1,650 (303)	2,290	2,528

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 2016年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益については、2016年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。
4. 2017年3月期の1株当たり配当額72円は、1株当たり中間配当額7円と1株当たり期末配当額65円の合計となります。なお、2016年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っておりますので、1株当たり中間配当額7円は株式併合前の配当額、1株当たり期末配当額65円は株式併合後の配当額となります。
5. 2017年3月期の1株当たり配当額72円（1株当たり中間配当額7円）には、創立75周年記念配当25円を含んでおります。
6. 株価は、名古屋証券取引所市場第一部におけるものであります。
7. 2016年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っておりますので、2017年3月期の株価については株式併合後の最高・最低株価を記載し、（ ）内に株式併合前の最高・最低株価を記載しております。
8. 2016年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っておりますので、株主総利回りについては、2014年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。
9. 2019年3月期の平均臨時雇用人員については、当該臨時従業員の総数が従業員数の100分の10未満であるため、記載しておりません。

2 【沿革】

1942年 2 月	川口将一の個人創業。
1942年 5 月	㈱愛知電機工作所に組織変更を行い、資本金10万円とした。 名古屋市東区水筒先町に本社及び工場をおき変圧器、電動機の販売・修理開始。
1947年 8 月	長野工場建設、本社工場にて柱上変圧器製造・販売開始。
1948年11月	岐阜工場建設。
1959年 6 月	現本社工場建設。
1959年11月	本社を春日井市松河戸町に移転。
1960年12月	岐阜、長野両工場はそれぞれ岐阜愛知電機㈱、長野愛知電機㈱として分離独立。
1961年 5 月	回転機工場建設、小型モータ及び応用製品の製造・販売開始。
1961年10月	株式を名古屋証券取引所市場第二部に上場。
1963年 6 月	販売会社 愛知電機商事㈱設立。
1964年 3 月	米国エマソン・エレクトリック・カンパニーと合併会社アイチエマソン電機㈱を設立し、ハーメティックモータ部門を分離独立。
1968年 4 月	小型モータ等の製造会社 恵那愛知電機㈱設立。
1970年10月	名古屋証券取引所市場第一部に指定替。
1980年 3 月	本社所在地愛知県春日井市愛知町 1 番地に町名地番変更。
1986年 1 月	決算期を 5 月31日から 3 月31日に変更。
1986年 4 月	愛知電機㈱に商号変更。
1999年 2 月	プリント配線板の製造・販売会社㈱エーネット設立。 プリント配線板の製造・販売会社㈱愛工機器製作所を子会社化。
2000年10月	愛知電機商事㈱と輸送部門担当会社 愛電産業㈱が合併し、愛電商事㈱へ商号変更。
2001年10月	温水洗浄便座の製造・開発に係わる事業について、東陶機器㈱（現 TOTO㈱）及び小糸工業㈱との共同新設分割により㈱パンウォシュレットを設立。
2002年10月	㈱愛工機器製作所と㈱エーネットが、㈱愛工機器製作所を存続会社として合併。
2002年11月	アイチエマソン電機㈱を100%子会社化し、アイチエレック㈱へ商号変更。また、同社の子会社である白鳥アイチエマソン㈱は、白鳥アイチエレック㈱へ商号変更。
2004年12月	中国江蘇省蘇州市に蘇州駐在員事務所を開設。
2005年 3 月	中国江蘇省蘇州市にハーメティックモータの製造・販売会社 蘇州愛知科技有限公司を設立。
2005年10月	恵那愛知電機㈱と同社の子会社である(有)アイゼンが、恵那愛知電機㈱を存続会社として合併。
2007年 3 月	TOTO ウォシュレットテクノ㈱（2006年10月㈱パンウォシュレットが商号変更）の当社保有株式を東陶機器㈱（現 TOTO㈱）へ売却し、合併を解消。
2011年 7 月	中国江蘇省蘇州市に、アイチエレック㈱及びアモイタングステン（中国）並びに昆山海峡発展基金（中国）との合併により、電動コンプレッサー用モータ、駆動用モータの製造・販売会社 蘇州愛知高斯電機有限公司を設立。
2017年10月	愛知電機㈱と同社の子会社である愛電商事㈱が、愛知電機㈱を存続会社として合併。

3 【事業の内容】

当社グループ（当社、子会社及び関連会社）は当社、子会社10社及び関連会社3社で構成され、電力機器事業及び回転機事業を行っております。

各事業における当社及び関係会社の位置づけ及びセグメントとの関連は次のとおりであります。

なお、電力機器及び回転機は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

電力機器事業 各種変圧器、制御機器等の製造・販売及び電力設備工事等を行っております。

各種変圧器、制御機器等は、当社が製造・販売を行うほか、岐阜愛知電機㈱が製造・販売しております。また、一部の製品・部品・材料は、当社が寿工業㈱、岐阜愛知電機㈱、長野愛知電機㈱及び愛知金属工業㈱より仕入れております。

電力設備工事は、当社が行っているほか、岐阜愛知電機㈱、長野愛知電機㈱が発変電・送電・通信関係の工事を行っております。

なお、その他の関係会社中部電力㈱は、当事業における主要な販売先であります。

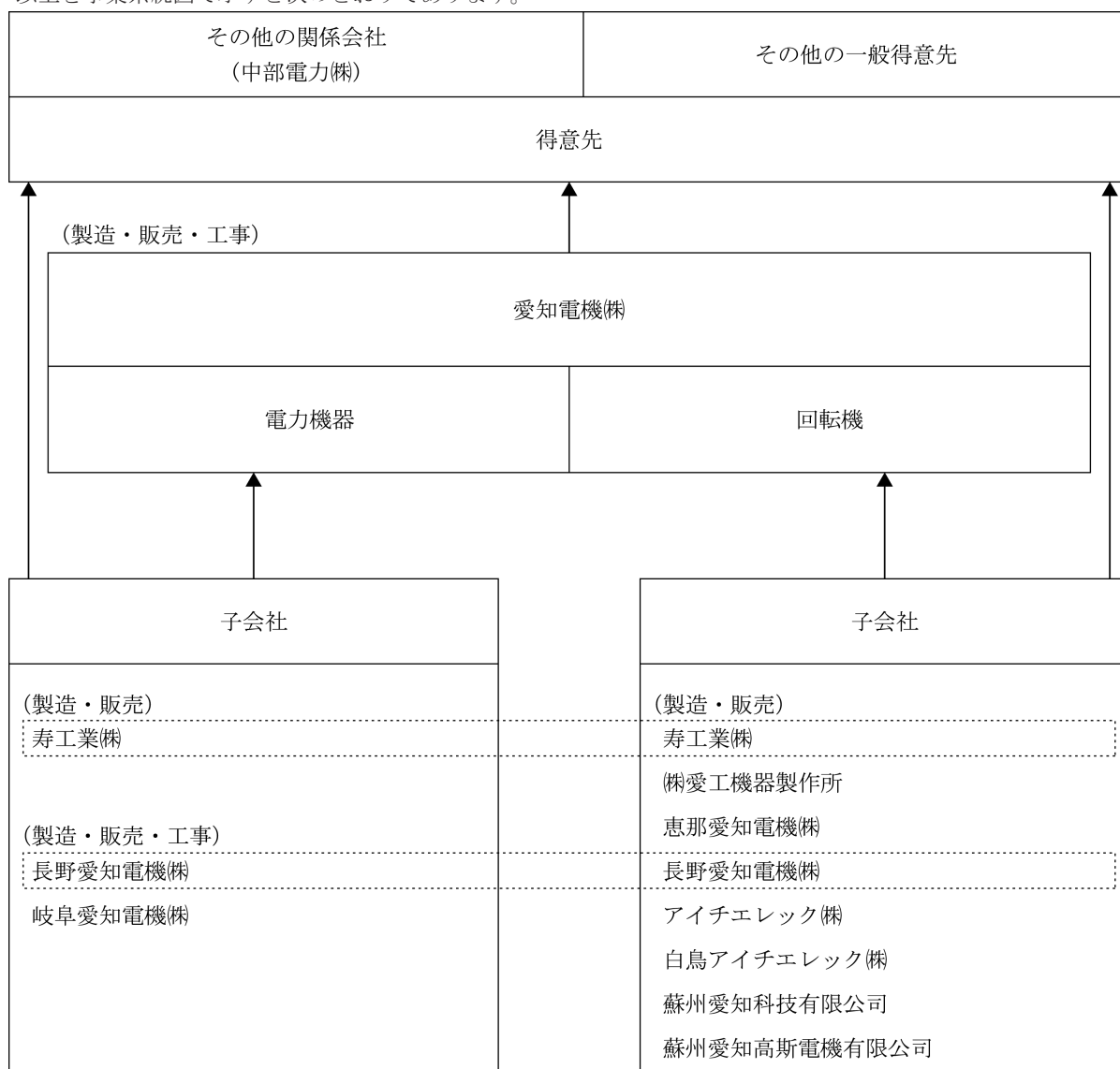
回転機事業 小型モータ、ハーメティックモータ、アクチエータ、シャッター開閉機、プリント配線板等の製造・販売を行っております。

小型モータ、アクチエータ、シャッター開閉機は、当社が製造・販売を行っております。また、一部の小型モータ、シャッター機器は、恵那愛知電機㈱が製造しております。

ハーメティックモータは、アイチエレック㈱、蘇州愛知科技有限公司、蘇州愛知高斯電機有限公司が製造・販売しております。また、一部の製品・部品・材料は、当社及びアイチエレック㈱が恵那愛知電機㈱、寿工業㈱、長野愛知電機㈱、白鳥アイチエレック㈱、蘇州愛知科技有限公司、蘇州愛知高斯電機有限公司より仕入れております。

プリント配線板は、㈱愛工機器製作所が製造・販売しております。

以上を事業系統図で示すと次のとおりであります。



*非連結子会社：1 社

蘇州愛工電子有限公司

*持分法適用関連会社：2 社

愛知金属工業㈱、中部環境ソリューション(同)

*持分法非適用関連会社：1 社

アムトラエレクトリック

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な 事業内容	議決権の所有 割合又は被所 有割合(%)	関係内容
(連結子会社) ㈱愛工機器製作所 (注) 3、5	愛知県春日井市	486	回転機	100.0	当社の販売するプリント配線板等の製品を同社で製造しております。 また、当社が資金の貸付及び担保提供をしております。 役員の兼任等 3人 (役員2人、従業員1人)
アイチエレクトリック㈱ (注) 3	愛知県春日井市	400	回転機	100.0	当社の販売する小型モータ製品の部品を同社で製造しております。 また、当社が資金の貸付をしております。 役員の兼任等 3人 (役員2人、従業員1人)
恵那愛知電機㈱	岐阜県恵那市	45	回転機	100.0	当社の販売する小型モータ等の製品を同社で製造しており、同社の使用する材料の一部を当社が支給しております。 また、当社が資金の貸付をしております。 役員の兼任等 3人 (役員1人、従業員2人)
岐阜愛知電機㈱	岐阜県各務原市	40	電力機器	100.0	当社の販売する変圧器製品の一部を同社で製造しており、同社の使用する材料の一部を当社が支給しております。 役員の兼任等 2人 (役員1人、従業員1人)
寿工業㈱	愛知県春日井市	90	電力機器 回転機	81.1 (29.1)	当社の製造する変圧器、小型モータ製品の部品を同社で製造しております。 役員の兼任等 2人 (役員1人、従業員1人)
白鳥アイチエレクトリック㈱	岐阜県郡上市	40	回転機	100.0 (100.0)	アイチエレクトリック㈱の販売するハーマティックモータ等の製品の一部を同社で製造しており、同社の使用する材料の一部をアイチエレクトリック㈱が支給しております。 役員の兼任等 3人 (役員2人、従業員1人)
長野愛知電機㈱	長野県長野市	80	電力機器 回転機	100.0 (33.1)	当社の製造する介護機器等の部品の一部を同社から購入しております。 役員の兼任等 2人 (従業員2人)
蘇州愛知科技有限公司 (注) 3、5	中国江蘇省蘇州市	2,600	回転機	100.0 (60.0)	当社の製造する介護用機器の部品の一部を同社で製造しております。 役員の兼任等 2人 (役員1人、従業員1人)
蘇州愛知高斯電機有限公司 (注) 5	中国江蘇省蘇州市	3,520 万米ドル	回転機	66.0 (57.0)	アイチエレクトリック㈱の販売するハーマティックモータ等の製品を同社で製造しております。 役員の兼任等 2人 (役員1人、従業員1人)

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な 事業内容	議決権の所有 割合又は被所有 割合(%)	関係内容
(持分法適用関連会社) 愛知金属工業(株)	愛知県春日井市	120	電力機器	47.5	当社の販売する変圧器製品の 部品を同社で製造しております。 役員の兼任等 1人
中部環境ソリューション(同)	愛知県弥富市	5	電力機器	30.0	役員の兼任等 1人 (従業員1人)
(その他の関係会社) 中部電力(株) (注) 4	名古屋市東区	430,777	電気事業	[24.5]	当社電力機器製品の販売先 役員の兼任等 1人

(注) 1. 「主要な事業内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 「議決権の所有割合又は被所有割合」の欄の()内数値は間接所有割合(内数)を、[]内数値は被所有割合を表しております。

3. (株)愛工機器製作所、アイチエレクトリック(株)及び蘇州愛知科技有限公司については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

(株)愛工機器製作所	(1) 売上高	11,332百万円
	(2) 経常利益	543
	(3) 当期純利益	428
	(4) 純資産額	2,852
	(5) 総資産額	10,537

(アイチエレクトリック(株))	(1) 売上高	13,320百万円
	(2) 経常利益	673
	(3) 当期純利益	578
	(4) 純資産額	4,484
	(5) 総資産額	15,104

(蘇州愛知科技有限公司)	(1) 売上高	16,585百万円
	(2) 経常利益	196
	(3) 当期純利益	149
	(4) 純資産額	7,397
	(5) 総資産額	12,810

4. 有価証券報告書提出会社であります。

5. 特定子会社に該当しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
電力機器	744 (61)
回転機	1,508 (120)
全社（共通）	118 (9)
合計	2,370 (190)

(注) 1. 従業員数は就業人員数（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む）であり、臨時従業員数は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。なお、臨時従業員には、期間社員及びパートタイマーを含み、派遣社員を除いております。

2. 全社（共通）として記載している従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
840	43.3	17.4	6,155

セグメントの名称	従業員数(人)
電力機器	596
回転機	145
全社（共通）	99
合計	840

(注) 1. 従業員数は就業人員数（当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む）であります。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社（共通）として記載している従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社グループには、愛知電機労働組合（組合員数829人）、恵那愛知電機労働組合（組合員数78人）、岐阜愛知電機労働組合（組合員数72人）、長野愛知電機労働組合（組合員数92人）から構成する愛知電機関連企業労働組合連合会が組織されております。なお、労使関係において特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 会社の経営の基本方針

当社は、経営基本方針として「積極経営」「技術錬磨」「人間尊重」を掲げております。この基本方針のもと、電力機器事業では、信頼性の高い製品を提供することにより、電力事業の一端を担い、電力の安定供給に寄与しております。また、回転機事業では、小型モータおよびモータ応用製品ならびに電子機器等の分野において高性能で高品質な製品を開発することにより、社会生活の向上に貢献しております。

(2) 中長期的な会社の経営戦略と対処すべき課題

今後につきましては、電力機器事業ではPCB関連特需が終了することに加え、主要顧客である電力会社において託送料金抑制を背景に設備の延命化や合理化が進むことが予想されます。回転機事業では、車載用モータなどの需要拡大が期待されますが、顧客の内製化進行が懸念されます。このように当社グループを取り巻く環境は大きく変化し厳しさを増しております。

こうした環境変化に迅速に対処するため、当社は、2019年4月から2024年3月の5年間を対象とした新たな中期経営計画2023「確かな技術で未来をひらく 変革と挑戦」を策定いたしました。この中期経営計画で掲げた4つの基本方針「新製品・新事業への挑戦」「既存事業の競争力強化」「海外事業の拡大展開」「経営基盤の強化」の重点施策を着実に実行し、更なる成長を目指してまいります。

なお、中期経営計画の最終年度にあたる2023年度の数値目標を、連結売上高1,000億円、連結経常利益60億円としております。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 特定顧客への依存

当社グループの事業は、変圧器およびその他周辺機器からなる電力機器、小型モータおよびモータ応用製品ならびに電子機器等からなる回転機の製造・販売を主な内容としております。

電力機器事業では電力会社、回転機事業では電機および機械メーカー等の顧客を中心に販売をしており、両事業とも特定の顧客に対する販売依存度が高い傾向にあります。今後、電力会社における設備投資等の動向や電機メーカーの内製化推進などの市場環境の変化は、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(2) 子会社の業績動向

当社グループは、製造、販売、部品供給などグループ会社間の協業に加え、各社の独自事業によりグループ経営を行っております。連結子会社の業績が大きく変動した場合は、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(3) 材料価格等の上昇

当社グループの主力製品は、銅、油などの基礎素材を使用しております。また、部材の一部を海外より調達しております。原油価格や為替レートなどの変動により、これらの材料価格が上昇した場合は、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(4) 海外事業

当社グループは、中国をはじめとする東南アジア地域やアフリカ地域において活動を推進しております。これらの地域において、経済・政情の悪化、法律・規則の変更、労使関係の悪化等が、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、堅調な企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移しました。海外経済につきましても回復基調で推移してきましたが、米中貿易摩擦の影響が顕在化してきたことなどにより、次第に減速感が強まってまいりました。

当社グループの経営環境につきましては、回転機事業では好調なエアコン・電子機器部品市場を背景に、ハーメティックモータやプリント配線板の需要が増加基調で推移しました。電力機器事業では主要顧客である電力会社が電力自由化に伴う競争激化の影響を受け、経営効率化の動きを加速してまいりました。

このような環境下、当社グループは中期経営計画2018「確かな技術で未来をひらく」の最終年度として経営目標（売上高800億円、経常利益45億円、ROA5.5%）の達成に努めるとともに、事業・製品の拡大強化と持続的成長の基盤強化に取り組んでまいりました。電力機器事業では配電系統高度化機器などの新製品開発を進めるとともに、トップランナー変圧器やバイオガス発電システムの販促活動に注力してまいりました。回転機事業ではハーメティックモータやプリント配線板の生産能力増強に努める一方、各種モータやアクチュエータの顧客開拓などに取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高につきましては、回転機事業の伸長により前期比2.3%増の800億3千4百万円となりましたが、利益につきましては、回転機事業の原価率悪化と電力機器事業の売上減の影響により減益となりました。営業利益は42億3千5百万円（前期比17.5%減）、経常利益は48億5千2百万円（前期比4.4%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は31億9百万円（前期比7.2%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

<電力機器事業>

トップランナー変圧器の売上が伸びましたが、配電線自動電圧調整器や柱上変圧器などの売上減が響き、減収減益となりました。売上高は293億1千9百万円（前期比7.1%減）、セグメント利益は41億1千4百万円（前期比18.7%減）となりました。

<回転機事業>

ハーメティックモータやプリント配線板が好調に推移し、売上高は増収となりましたが、利益面では原材料価格の上昇や売上構成の変化の影響を受け、前期を若干下回りました。売上高は507億1千4百万円（前期比8.7%増）、セグメント利益は16億6千4百万円（前期比3.5%減）となりました。

生産、受注及び販売の実績は、次のとおりであります。

① 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前期比(%)
電力機器	27,712	△6.2
回転機	47,705	7.6
合計	75,417	2.1

(注) 1. 金額は、販売価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

② 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前期比(%)	受注残高(百万円)	前期比(%)
電力機器	29,274	△6.4	1,405	△3.1
回転機	49,842	4.3	2,929	△23.0
合計	79,116	0.1	4,334	△17.5

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前期比(%)
電力機器	29,319	△7.1
回転機	50,714	8.7
合計	80,034	2.3

(注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
中部電力㈱	19,004	24.3	18,400	23.0

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態

当連結会計年度末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ14億8千4百万円増加し901億5千6百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比べ10億8千5百万円増加し648億8千5百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加54億7千7百万円、受取手形及び売掛金の減少18億8千2百万円、電子記録債権の増加3億1千1百万円、棚卸資産の増加7億1千2百万円、有価証券の減少36億3千8百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比べ3億9千8百万円増加し252億7千万円となりました。これは主に、有形固定資産の減少1億9千万円、投資その他の資産の増加5億7千2百万円によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比べ8億1千2百万円減少し364億8千1百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比べ7億7千7百万円増加し285億1千8百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の減少7億6千6百万円、電子記録債務の増加14億4千6百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加1億8千9百万円、未払費用の減少1億4百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比べ15億9千万円減少し79億6千2百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少16億1千3百万円、退職給付に係る負債の減少5千6百万円、リース債務の増加1億1百万円によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比べ22億9千7百万円増加し536億7千4百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加22億5千5百万円、その他有価証券評価差額金の減少1億9千1百万円、為替換算調整勘定の減少5億5千1百万円、非支配株主持分の増加8億3千1百万円によるものであります。

自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ0.6%増加し57.9%となりました。

セグメントごとの資産は、次のとおりであります。

電力機器事業の総資産は244億9千万円（前年同期259億1千3百万円）となり、前連結会計年度末と比べ14億2千2百万円減少となりました。

回転機事業の総資産は498億7百万円（前年同期452億1百万円）となり、前連結会計年度末と比べ46億5百万円増加となりました。

(3) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末と比べ54億6千8百万円増加し、176億7千6百万円となりました。

当連結会計年度末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加は、66億6千7百万円（前年同期18億6千8百万円）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益45億4千6百万円、減価償却費22億4千8百万円、売上債権の減少額8億5千8百万円、仕入債務の増加額7億9千8百万円などの資金の増加と、たな卸資産の増加額8億8千9百万円、法人税等の支払額9億8千2百万円などの資金の減少によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の増加は、3億7千5百万円（前年同期24億9千2百万円の資金の減少）となりました。これは主に、有価証券の売却による収入36億2千9百万円、有形固定資産の取得による支出21億8千2百万円、投資有価証券の取得による支出10億4千2百万円などによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は、14億1千3百万円（前年同期24億6千4百万円）となりました。これは主に、長期借入れによる収入5億円の資金の増加と、長期借入金の返済による支出19億2千3百万円によるものであります。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、「第3 設備の状況 3 設備の新設、除却等の計画」に記載のとおり資本的支出を行う予定であります。また、資本の財源については自己資金でまかなう予定であります。

4 【経営上の重要な契約等】

当社は、2019年5月17日開催の取締役会において、2020年4月1日付で当社を存続会社、連結子会社アイチエレクトルを消滅会社とする吸収合併を行うことを決議し、同日付で合併契約を締結いたしました。

詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」の重要な後発事象に記載しております。

5 【研究開発活動】

当社グループは、顧客ニーズと将来の製品・技術動向を見据え、多岐にわたる分野において研究開発に取り組んでおります。

当社においては、2018年度の研究開発方針として、「製品の競争力強化」と「新製品・新事業の創出」を掲げ、研究開発を推進いたしました。

また、再生可能エネルギー普及の拡大、電力システム改革の進展、海外電力インフラ需要の増加、産業向け機器の高機能化などの市場動向を踏まえ、バイオガス発電用設備、自動電圧調整器や配電システムの高度化、産業機器関連などを重点開発項目として注力してまいりました。

グループ会社においても、それぞれの事業に対応した研究開発を進めており、当連結会計年度における研究開発の総額は977百万円であります。

セグメントごとの研究開発活動の内容及び成果は次のとおりであります。

電力機器事業では、変圧器、制御・通信、電力変換の各分野に注力いたしました。

当連結会計年度に市場投入した製品は、「パームヤシ油入負荷時タップ切替変圧器」「第6世代配電線自動化子局」「高性能サイリスタ式自動電圧調整器(A²-TVR)」「第2世代自動電圧調整器(SVR2G)」などがあります。推進中の製品開発は、「受配電設備用監視制御システム」「改良型7.2kV真空遮断器」などがあります。

回転機事業では、産業機器、介護機器の各分野に注力いたしました。

当連結会計年度に市場投入した製品は、「会議テーブル用電動昇降駆動システム」があります。推進中の製品開発は、「循環ポンプ用ブラシレスDCモータ」「介護リフト用昇降ユニット」などがあります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、当連結会計年度において総額2,271百万円の設備投資を実施しました。
セグメントごとの設備投資の状況は以下のとおりであります。
なお、設備投資額については、有形固定資産のほか、無形固定資産も含めて表示しております。

(1) 電力機器

生産設備の維持更新や省力化など、421百万円の設備投資を実施しました。

(2) 回転機

プリント配線板やハーメティックモータの生産能力増強など、1,818百万円の設備投資を実施しました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
本社・工場 (愛知県春日井市)	電力機器 回転機 管理部門	電力機器及び回 転機製品の生産 設備、その他設 備	2,222	1,036	913 (168,021)	406	400	4,980	772 [39]

(注) 1. 帳簿価額「その他」には、建設仮勘定の金額を含まず、無形固定資産を含めて記載しております。
2. [] 内数値は、臨時従業員数で外数であります。
3. 上記のほか、連結会社以外への主な賃貸設備として、土地183百万円(847㎡)があります。

(2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
㈱愛工機器 製作所	本社・春日井工場 (愛知県春日井市)	回転機	プリント配 線板の生産 設備	1,161	481	—	38	39	1,721	153 [14]
㈱愛工機器 製作所	中津川第1・2工 場 (岐阜県中津川市)	回転機	プリント配 線板の生産 設備	464	366	343 (22,941)	43	19	1,236	154 [15]
アイチエレ ック㈱	本社・工場 (愛知県春日井市)	回転機	ハーメティ ックモータ の生産設備	70	339	451 (14,787)	88	52	1,002	174 [19]
恵那愛知電 機㈱	本社・工場 (岐阜県恵那市)	回転機	小型モータ の生産設備	41	12	162 (120,643)	64	8	288	88 [46]
岐阜愛知電 機㈱	本社・電機事業部 (岐阜県各務原市)	電力機器	変圧器の生 産設備	348	86	149 (8,528)	—	27	612	57 [21]
岐阜愛知電 機㈱	建設事業部 (岐阜県岐阜市)	電力機器	工事部門設 備	58	3	141 (2,353)	—	9	212	25 [2]
寿工業㈱	本社・工場 (愛知県春日井市)	電力機器 回転機	変圧器部品 及び小型モ ータ部品の 生産設備	58	17	121 (15,235)	—	13	210	58 [15]

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
白鳥アイチ エレクトリック(株)	本社・工場 (岐阜県郡上市)	回転機	ハーメティ ックモータ の生産設備	141	36	125 (28,545)	—	9	312	88 [10]
長野愛知電 機(株)	本社・工場 (長野県長野市)	電力機器 回転機	工 事 部 門 設 備 及 び 小 型 モータ部品 等の生産設備	226	136	82 (15,161)	—	30	475	140 [8]

- (注) 1. 帳簿価額「その他」には、建設仮勘定の金額を含まず、無形固定資産を含めて記載しております。
2. [] 内数値は、臨時従業員数で外数であります。
3. 上記のほか、(株)愛工機器製作所(本社・春日井工場)については、提出会社が土地(12,998㎡)を貸与しており、その借地権として300百万円を設定しております。

(3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地使用権 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
蘇州愛知科 技有限公司	本社・工場 (中国江蘇省蘇州市)	回転機	ハーメティ ックモータ の生産設備	740	804	42 (28,838)	—	413	2,000	389
蘇州愛知高 斯電機有限 公司	本社・工場 (中国江蘇省蘇州市)	回転機	ハーメティ ックモータ の生産設備	—	372	—	—	70	443	181

(注) 帳簿価額「その他」には、建設仮勘定の金額を含まず、無形固定資産を含めて記載しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定		備考
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
蘇州愛知高 斯電機有限 公司	本社・工場 (中国江蘇省蘇州市)	回転機	工場新設(建物及 び生産設備等)	1,818	—	増資資金	2019年4月	2020年4月	—
愛知電機(株)	本社・工場 (愛知県春日井市)	電力機器	小型変圧器工場の レイアウト変更	1,560	17	自己資金	2019年2月	2021年2月	—
蘇州愛知科 技有限公司	本社・工場 (中国江蘇省蘇州市)	回転機	ハーメティックモ ータの生産設備	737	—	自己資金	2019年1月	2019年12月	—
(株)愛工機器 製作所	本社・工場 (愛知県春日井市)	回転機	プリント配線板の 生産設備	563	—	自己資金	2019年4月	2019年9月	—
アイチエレ ック(株)	本社・工場 (愛知県春日井市)	回転機	ハーメティックモ ータの生産設備	481	—	自己資金	2019年4月	2020年3月	—

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	23,912,200
計	23,912,200

② 【発行済株式】

種類	事業年度末 現在発行数（株） (2019年3月31日)	提出日現在発行数（株） (2019年6月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,500,000	9,500,000	名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	9,500,000	9,500,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2016年10月1日 (注) 1	△38,601	9,650	—	4,053	—	2,199
2017年4月14日 (注) 2	△150	9,500	—	4,053	—	2,199

(注) 1. 発行済株式総数の減少は、普通株式5株を1株に併合したことによるものであります。

2. 発行済株式総数の減少は、自己株式150千株を消却したことによるものであります。

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

2019年5月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）								単元未満株式の状況（株）
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	16	6	75	29	2	2,568	2,696	—
所有株式数(単元)	—	17,473	39	50,489	9,902	61	16,852	94,816	18,400
所有株式数の割合(%)	—	18.43	0.04	53.25	10.44	0.07	17.77	100.00	—

（注） 1. 自己株式4,065株は、「個人その他」に40単元、「単元未満株式の状況」に65株含まれております。

2. 上記「その他の法人」の中には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が8単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数（千株）	発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する所有株式数の割合（%）
中部電力株式会社	名古屋市東区東新町1	2,326	24.50
T S U C H I Y A株式会社	大垣市神田町2-55	1,000	10.53
古河電気工業株式会社	東京都千代田区丸の内2-2-3	807	8.50
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	446	4.70
ビービーエイチ フォー ファイデリティ ロー プライズド ストック ファンド（プリンシパルオール セクター サポートフォリオ） （常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行）	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. （東京都千代田区丸の内2-7-1）	323	3.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4）	東京都中央区晴海1-8-11	303	3.19
株式会社川口興産	名古屋市東区葵1-13-18	200	2.10
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ フィデリティ ファンズ （常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部）	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5 NT, UK （東京都中央区日本橋3-11-1）	192	2.02
株式会社光通信	東京都豊島区西池袋1-4-10	186	1.96
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	175	1.85
計	—	5,962	62.79

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 4,000	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 11,000	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 9,466,600	94,666	—
単元未満株式	普通株式 18,400	—	—
発行済株式総数	9,500,000	—	—
総株主の議決権	—	94,666	—

(注) 1. 「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が800株（議決権8個）含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が65株、相互保有株式が7株含まれております。

② 【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
愛知電機㈱	春日井市愛知町1	4,000	—	4,000	0.04
愛知金属工業㈱	春日井市大手田西町3-13-18	11,000	—	11,000	0.11
計	—	15,000	—	15,000	0.15

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数（株）	価額の総額（百万円）
当事業年度における取得自己株式	82	0
当期間における取得自己株式	4	0

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数（株）	処分価額の総額 （百万円）	株式数（株）	処分価額の総額 （百万円）
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 （単元未満株式の売渡請求による売渡）	25	0	—	—
保有自己株式数	4,065	—	4,069	—

（注）当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡しによる株式は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、安定配当の継続を利益配分に関する基本方針とし、業績の変化や今後の事業展開等を総合的に勘案した配当の実施を考えております。なお、中期経営計画2018「確かな技術で未来をひらく」では、2016年度から2018年度までの配当性向について、平均25%を目指すこととしております。また、業績動向などを踏まえた機動的な自己株式の取得により、総合的な株主還元（総還元性向）の充実ははかってまいります。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当事業年度の配当金につきましては、上記方針のもと、業績及び今後の業況等を勘案して、年間配当金は、1株当たり90円（中間配当1株当たり45円を含む）としております。

内部留保資金につきましては、設備投資及び研究開発投資並びに新規事業投資として有効かつ効率的に活用し、企業体質の強化に努めてまいります。

なお、基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）
2018年10月31日 取締役会決議	427	45.00
2019年6月27日 定時株主総会決議	427	45.00

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

①コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、環境の変化に素早的確に対応することが株主の皆様をはじめとする社会全体からの信頼を獲得する鍵であると認識し、経営判断における意思決定の迅速化と透明性を確保すべく、コーポレート・ガバナンスの充実・強化に努めております。

コーポレート・ガバナンス基本方針

1. 株主の権利を尊重し、株主の実質的な平等性の確保に努めます。
2. ステークホルダーとの適切な協働を図ります。
3. 会社情報を適切に開示し透明性を確保します。
4. 取締役会による実効性のある経営および業務執行の監督を行います。
5. 株主との間で建設的な対話を行います。

②会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

イ. 会社の機関の基本説明

当社は、監査役制度を採用しており、取締役会、常務会、監査役会等を通じて取締役の業務執行に対する監視機能の充実をはかっております。

ロ. 会社の機関の内容

a. 取締役会

取締役会は、原則として毎月1回開催しております。12名の取締役（うち社外取締役2名）で構成され、取締役の業務執行を監督するとともに法令・定款に定める事項及び経営上の重要事項を審議、決定しております。

b. 常務会（経営会議）

常務会は、原則として毎月2回開催しております。業務に精通した常勤取締役で構成され、業務執行に関する重要事項について多面的に審議し、速やかな対応をはかる体制をとっております。

c. 監査役会

監査役会は、毎月1回開催しております。3名の監査役（うち社外監査役2名）で構成され、各監査役は、本社及び各支社に対する監査並びに子会社に対する調査を行います。

ハ. 現状の体制を採用している理由

社外取締役2名及び社外監査役2名を含む取締役及び監査役で構成される取締役会並びに業務に精通した常勤取締役で構成される常務会を通じ、社外取締役及び社外監査役による経営の監視機能を整備する一方、重要な業務執行に速やかな対応をはかる体制を整備しており、現状において最適と考えているためであります。

ニ. 内部統制システムの整備の状況

当社における内部統制システムに関する基本的な考え方とその整備状況は、次のとおりであります。

＜業務の適正を確保するための体制＞

当社は、株主、顧客、取引先をはじめとする社会全体からの信頼を得るため、会社法および会社法施行規則に基づき、「業務の適正を確保するための体制」を以下のとおり定める。

a. 取締役および使用人（以下「取締役等」という）の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- ・取締役会を原則として毎月1回開催し、法令・定款に定める事項および経営上の重要事項を審議、決定するとともに取締役の業務執行を監督する。
- ・コンプライアンス全体を統括する組織として、社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置するとともに、中電グループコンプライアンス推進協議会に参加する。
- ・コンプライアンスの推進については、社員行動規範である「コンプライアンス10箇条」を定め、法令、社内規定および企業倫理の遵守に対する取締役等の意識を高め、良識と責任のある行動をとるよう取り組む。
- ・コンプライアンス違反事象の未然防止・早期改善をはかるため、内部通報窓口である「ヘルプライン」を設置する。
- ・社長直属の内部を監査する部門を設置し、各部門の業務執行状況等を監査し、その結果を常務会に報告する。

b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役等の職務執行に係る文書等の保存・管理については、法令および社内規定に基づき適切にこれを行うとともに、電子情報セキュリティポリシーを定め管理する。

- c. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - ・事業運営に関する様々なリスクに対して的確に対応するため、リスク管理規程を定める。
 - ・経営に重大な影響を与えるリスクについては、経営計画の策定および重要な意思決定にあたり各部門が把握・評価し、取締役会および常務会において審議または報告を行う。
 - ・災害による損失の軽減をはかるため災害対策規程を定め、経営に与える影響を最小限にする。
 - d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - ・常務会を原則として毎月2回開催し、業務執行に関する重要事項について多面的に審議する。
 - ・業務執行にあたっては、中期経営計画および年度経営方針を策定する。
 - ・社内規定に各部門および各部署の業務分掌、権限を定め、取締役等の職務執行の適正および効率性を確保する。
 - ・決裁にあたっては、審査部門等による審査を行う。
 - e. 反社会的勢力排除に向けた体制
反社会的勢力に対しては、「『コンプライアンス10箇条』の具体的内容」において、毅然として対決することを定めるとともに、関連する外部専門機関と連携して対応する。
 - f. グループ会社の業務の適正を確保するための体制
 - ・グループ会社の取締役を兼任している取締役等は、当該会社の業務執行状況等を把握し、グループ会社との連携をはかり、経営課題の解決に努める。
 - ・グループ会社の統括部門を当社内に設置し、グループ会社から経営状況等に関する月次報告および重要事項の報告を受ける。また、当社の社長、取締役等およびグループ会社の社長とで構成する「関係会社社長会」を開催し、緊密な連携をはかる。
 - ・グループ全体のリスクを把握、管理するため、リスク管理に関する規程を整備する。
 - ・グループ会社の統括部門は、グループ会社に対し、コンプライアンスに関する教育、助言等を行う。また、主要なグループ会社に対しては非常勤役員を派遣し、コンプライアンスや経営全般に関する監視を行う。
 - ・グループ会社の業務運営が適正かつ効率的に実施されていることの内部監査を行い、その結果を社長および監査役に報告する。
 - g. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制、当該使用人の取締役からの独立性および監査役の使用人に対する指示の実効性の確保に関する体制
 - ・監査役職務の補佐を目的に、各部門から独立した組織として監査役直属の監査役グループを設置し、監査役制度が十分機能する体制をとる。
 - ・監査役グループに必要な使用人を配置し、監査役からの指示の実効性を確保する。
 - ・監査役グループに所属する使用人は取締役の指揮・命令を受けず、その異動・評定にあたっては監査役の意向を尊重する。
 - ・取締役等は、監査役の指示に基づき職務を遂行したことを理由として、監査役グループに所属する使用人に不利益を及ぼさない。
 - h. 監査役への報告に関する体制
 - ・各部門に係る事業の概況を監査役に報告するほか、主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書等について監査役の閲覧に供する。
 - ・当社監査役、子会社監査役および内部監査を担当する部門長は、定期的に監査連絡会を開催し、情報連絡を行う。監査連絡会では、子会社監査役および内部監査を担当する部門長から当社監査役に対し、子会社取締役会での審議事項、子会社監査の実施状況等を報告する。
 - ・監査役に報告を行ったことを理由として、当該報告者に対し、人事上その他の不利益な取扱いを行わない。
 - i. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
 - ・監査役の職務の執行に関する費用については、監査役グループが予算を計上し、監査役の請求に従い当社が負担する。
 - ・内部監査を担当する部門および会計監査人は、監査計画の策定・実施にあたって監査役と協議するとともに、実施結果を監査役に報告する。
 - ・社長は、監査役と代表取締役が経営全般に関して意見交換する機会を設ける。
- ③リスク管理体制の整備の状況
経営に重大な影響を与えるリスクについては、経営計画の策定及び重要な意思決定にあたり各部門が把握・評価し、常務会において審議または報告を行っております。
具体的には、リスク管理規程に従い各部門は、年2回定期的にリスクの把握・評価を実施し、リスク対策の状況を管理部門に報告するとともに、リスク対策を反映した業務計画を策定し、業務を遂行しております。

④取締役の定数

当社の取締役は19名以内とする旨を定款に定めております。

⑤取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

⑥取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役及び監査役が職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、取締役及び監査役（取締役及び監査役であった者を含む）の会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、法令の定める限度額の範囲内で、その責任を免除することができる旨を定款に定めております。

⑦社外取締役及び社外監査役との間で締結した責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役及び社外監査役が職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第427条第1項及び定款の規定に基づき、社外取締役及び社外監査役との間で、任務を怠ったことによる損害賠償責任を会社法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度とする契約を締結しております。

⑧中間配当の決定機関

当社は、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。これは、株主への安定的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

⑨自己の株式の取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、機動的に自己株式の取得を行うことを目的とするものであります。

⑩株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

①役員一覧

男性15名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役社長 (代表取締役)	佐藤 徹	1950年2月14日生	1972年4月 当社入社 2001年6月 取締役電力事業部長 2005年6月 常務取締役開発・環境事業部長 2007年6月 代表取締役常務取締役電力事業部管掌 2011年6月 代表取締役専務取締役電力事業部管掌 2013年6月 代表取締役専務取締役経営企画部・電力事業部管掌 2015年6月 代表取締役社長 (現任)	(注)3	6,000
常務取締役 管理本部長	小林 和郎	1954年7月4日生	1978年4月 当社入社 2007年7月 理事経営企画部長 2010年10月 ㈱愛工機器製作所常務取締役管理本部長 2011年6月 同社代表取締役社長 2017年6月 当社取締役 2018年6月 ㈱愛工機器製作所取締役会長 (現任) 当社取締役管理本部長 2019年6月 常務取締役管理本部長 (現任)	(注)3	2,200
常務取締役 電力事業部長	宮川 利之	1954年7月20日生	1973年4月 当社入社 2009年7月 参与電力事業部制御技術部長 2011年7月 理事電力事業部制御技術部長 2012年10月 理事電力事業部マーケティング部長 2017年4月 理事電力事業部副事業部長兼営業部長 兼電力システム部長 2017年6月 取締役電力事業部副事業部長兼営業部長 兼電力システム部長 2018年4月 取締役電力事業部副事業部長兼営業部長 2019年4月 取締役電力事業部長 2019年6月 常務取締役電力事業部長 (現任)	(注)3	4,100
取締役 機器事業部長	野々村 勝巳	1956年3月10日生	1978年4月 当社入社 2009年7月 理事機器事業部技術部長 2013年6月 取締役機器事業部副事業部長兼技術部長 2014年3月 取締役機器事業部副事業部長兼技術部長 兼インバータ事業プロジェクトリーダー 2017年4月 取締役機器事業部長 (現任) 2017年5月 恵那愛知電機㈱代表取締役社長 (現任)	(注)3	2,000
取締役 機器事業部副事業部長兼営業部担当	山下 直治	1956年8月7日生	1979年4月 当社入社 1999年7月 営業本部第2営業部第2営業グループ長 2004年7月 機器事業部機器営業グループ長 2008年7月 参与機器事業部機器営業部機器営業グループ長 2009年7月 理事機器事業部機器営業部長 2017年4月 理事機器事業部副事業部長兼営業部長 2018年6月 取締役機器事業部副事業部長兼営業部長 2019年4月 取締役機器事業部副事業部長兼営業部担当 (現任)	(注)3	2,000
取締役 電力事業部副事業部長兼制御設計部長	田島 久嗣	1961年3月29日生	1983年4月 当社入社 2002年7月 電力事業部配電システムグループ長 2011年7月 参与電力事業部制御技術部配電システムグループ長 2012年7月 理事電力事業部制御技術部配電システムグループ長 2012年10月 理事電力事業部制御技術部長 2016年4月 理事電力事業部制御設計部長 2018年6月 取締役電力事業部制御設計部長 2019年4月 取締役電力事業部副事業部長兼制御設計部長 (現任)	(注)3	2,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 電力事業部電力システム部長	高橋 順一	1961年 1 月21日生	1983年 4 月 中部電力㈱入社 2016年 4 月 同社執行役員グループ経営戦略本部電力取引部長 2017年 4 月 同社特別参与 当社理事電力事業部電力システム部担当 2018年 4 月 理事電力事業部電力システム部長 2018年 6 月 取締役電力事業部電力システム部長（現任）	(注)3	2, 200
取締役 電力事業部品質管理部担当兼 制御設計部担当	垣原 正樹	1963年 5 月13日生	1989年 4 月 中部電力㈱入社 2012年 7 月 同社お客さま本部配電部架空配電グループ長 2014年 7 月 同社静岡支店営業部長 2017年 7 月 当社理事電力事業部制御設計部担当 2018年 6 月 取締役電力事業部品質管理部担当兼制御設計部担当（現任）	(注)3	2, 000
取締役 電力事業部副事業部長兼変圧器設計部長	須田 芳和	1962年11月20日生	1985年 4 月 当社入社 2007年 7 月 電力事業部電力環境グループ長 2009年 7 月 電力事業部変圧器技術部小形技術グループ長 2014年 7 月 参与電力事業部変圧器技術部副部長兼小形技術グループ長 2015年 7 月 参与電力事業部変圧器技術部長 2016年 4 月 参与電力事業部変圧器設計部長 2017年 4 月 理事電力事業部変圧器設計部長 2019年 4 月 理事電力事業部副事業部長兼変圧器設計部長 2019年 6 月 取締役電力事業部副事業部長兼変圧器設計部長（現任）	(注)3	—
取締役	加藤 忍	1970年11月20日生	1996年 4 月 当社入社 1996年 7 月 アイチエマソン電機㈱（現アイチエレック㈱）出向 2009年 7 月 当社参与 2011年 6 月 アイチエレック㈱取締役 2013年 6 月 同社常務取締役 2014年 7 月 蘇州愛知科技有限公司董事長（現任） 2015年 6 月 アイチエレック㈱代表取締役社長（現任） 当社取締役（現任） 2018年 6 月 白鳥アイチエレック㈱代表取締役社長（現任）	(注)3	2, 000
取締役	天野 望	1956年 7 月15日生	1980年 4 月 古河電気工業㈱入社 2010年 6 月 同社取締役兼執行役員、C S O 2013年 4 月 同社取締役兼執行役員、総務・C S R 本部長 2014年 4 月 同社取締役兼執行役員常務、総務・C S R 本部長 2015年 6 月 当社取締役（現任） 2018年 4 月 古河電気工業㈱取締役 2018年 6 月 同社監査役（現任）	(注)3	—
取締役	瀬尾 英重	1951年10月10日生	1974年 3 月 マスプロ電工㈱入社 1989年12月 同社取締役社長室長 1998年 6 月 同社専務取締役管理本部長 1999年10月 同社取締役副社長管理本部長 2005年 6 月 同社代表取締役社長 2009年 6 月 同社代表取締役会長 2014年 6 月 中央可鍛工業㈱社外取締役（現任） 2016年 6 月 J B C C ホールディングス㈱補欠監査等委員取締役（現任） 2019年 6 月 当社取締役（現任）	(注)3	—
監査役 (常勤)	細江 秀喜	1955年 8 月 9 日生	1979年 4 月 当社入社 2010年 7 月 参与業務部購買企画グループ長 2013年 7 月 理事業務部長兼資材調達グループ長 2015年 6 月 取締役経営企画部長兼業務部長 2016年 4 月 取締役管理本部長 2018年 6 月 監査役（現任）	(注)4	2, 600

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
監査役	松原 和弘	1953年11月15日生	1976年4月 中部電力㈱入社 2009年6月 同社取締役専務執行役員経理部・資材部統括 2010年6月 同社代表取締役副社長執行役員経理部・資材部統括 2011年6月 同社代表取締役副社長執行役員法務部・総務部・経理部・資材部統括 2013年6月 同社代表取締役副社長執行役員法務部・総務部・経理部・資材部・情報システム部統括 2016年4月 同社取締役 2016年6月 同社常任監査役（現任） 当社監査役（現任）	(注)4	—
監査役	堀 雅寿	1953年10月14日生	1976年4月 富士ゼロックス㈱入社 1990年1月 ㈱日本総合研究所入所 経営コンサルタント 2001年6月 ㈱ポッカコーポレーション取締役企画室長 2003年4月 同社専務取締役 2005年12月 同社代表取締役社長 2011年6月 同社代表取締役会長 2012年3月 ポッカサッポロフード&ビバレッジ㈱代表取締役社長 2014年1月 同社取締役相談役 2014年3月 同社相談役 2015年6月 当社監査役（現任） 2019年5月 ㈱コメダホールディングス取締役（監査等委員）（現任）	(注)4	—
計					27,100

- (注) 1. 取締役天野望及び瀬尾英重は、社外取締役であります。
2. 監査役松原和弘及び堀雅寿は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会の終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
4. 監査役の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会の終結の時から2023年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。

②社外役員の状況

当社は、他社における取締役及び監査役として豊富な経験、高い見識及び幅広い知識等を当社の経営または監査に反映させるため、社外取締役及び社外監査役を選任しております。

社外取締役である天野望氏については、古河電気工業㈱の取締役、監査役として同社の経営に携わり、経営者としての豊富な経験や幅広い知見を有しており、客観的な立場から当社の経営に活かしていただくため、社外取締役として選任しております。

社外取締役である瀬尾英重氏については、マスプロ電工㈱代表取締役社長として同社の経営に携わり、経営者としての豊富な経験や知見を有しており、客観的な立場から当社の経営に活かしていただくため、社外取締役として選任しております。

社外監査役である松原和弘氏については、中部電力㈱の常勤監査役を兼職しており、同社の業務執行者ではないことから、独立性は保たれていると判断しております。また、同氏については、上場企業における代表取締役経験者として豊富な経験と高い見識を当社の監査に反映していただくため、社外監査役として選任しております。

社外監査役である堀雅寿氏については、企業経営に関する豊富な経験と幅広い知識を当社の監査に反映していただくため、社外監査役として選任しております。

当社は、当社における社外取締役及び社外監査役の独立性の判断基準として、株式会社名古屋証券取引所など国内の金融商品取引所が定める独立役員の要件を踏まえ、本人の現在及び過去3事業年度における以下に定める要件の有無を確認のうえ、独立性を判断します。

- (a) 当社を主要な取引先とする者またはその業務執行者でないこと。
- (b) 当社の主要な取引先またはその業務執行者でないこと。
- (c) 当社の主要な借入先またはその業務執行者でないこと。
- (d) 当社から、役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家または法律専門家（当該財産を得ている者が法人、組合などの団体である場合は、当該団体に所属する者をいう）でないこと。
- (e) 本人の配偶者または二親等内の親族が以下に掲げる者に該当しないこと。
 - ・上記（a）～（d）に掲げる者。
 - ・当社の子会社の業務執行者。
 - ・当社の子会社の業務執行者でない取締役または会計参与（社外取締役を独立役員として指定する場合に限る）。

なお、当社と社外取締役及び社外監査役との間に利害関係はありません。

③社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外監査役を含む各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、監査計画等に従い、取締役及び内部監査部門その他の使用人等と意思疎通をはかり、情報の収集及び監査の環境の整備に努めております。

また、社外監査役を含めた各監査役と会計監査人は、定期的に意見・情報交換を行っております。

社外取締役は、原則として毎月1回開催される取締役会へ出席し、取締役の業務執行を監督するとともに、適宜発言を行っております。

(3) 【監査の状況】

① 監査役監査の状況

監査役会は、3名の監査役（うち社外監査役2名）で構成され、毎月開催しております。監査役は、取締役会及び常務会に出席し、必要に応じて意見を述べるほか、重要書類の閲覧や業務執行状況のヒアリング等による取締役の職務執行の監査、各支社への往査、及び子会社の調査を行っております。また、会計監査人から定期的に監査結果の報告を受け、必要に応じ意見・情報交換を行うなど会計監査人と緊密な連携を保っております。

監査役には、経理業務を経験し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する者が含まれております。また、監査役は、他社における取締役及び監査役経験者として豊富な経験、高い見識及び幅広い知識等を当社の監査に反映しております。

② 内部監査の状況

当社における内部監査は、社長直属の組織である内部監査室（4名）が担当しております。内部監査室では、当社及びグループ会社の業務執行状況、法令・規程の遵守状況等に関する監査並びに財務報告に係る内部統制の運用状況の検証を行い、必要に応じ関係部門に対する改善指示をしております。また、監査役とは定期的に連絡会を開催し、これらの活動等に関する意見・情報交換を行っております。

③ 会計監査の状況

a. 監査法人の名称

名古屋監査法人

b. 業務を執行した公認会計士

今井 清博

市川 泰孝

c. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士3名と公認会計士試験合格者1名であります。

d. 監査法人の選定方針と理由

監査役会は、会計監査人の職務の執行が適正に行われる体制の整備状況、会計監査人の独立性、監査契約の受任及び継続の方針などを総合的に勘案して選定しております。

また、会計監査人の解任または不再任の決定の方針は以下の通りであります。

当社は、会社法第340条に定める監査役会による会計監査人の解任のほか、会計監査人が職務を適切に遂行することが困難と認められる場合には、会社法第344条の定めにより、監査役会が決定し、会計監査人の解任または不再任に関する議案を株主総会に提案いたします。

e. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役会は、会計監査人の再任決議に係わる評価基準を定め、会計監査人の独立性、品質管理の体制、監査の方法及び結果の相当性を評価しております。

④ 監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	29	—	30	—
連結子会社	—	—	—	—
計	29	—	30	—

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬（a. を除く）

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

決定方針は特に定めておりませんが、監査日数等を勘案して決定しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画、監査報酬の過年度比較、報酬見積りの算出根拠などを確認し、報酬額の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

① 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する具体的な方針を定めておりませんが、役員報酬については、当社所定の基準に従い、株主総会決議に基づく報酬限度額の範囲内で支給いたしております。

当社の役員の報酬に関する株主総会の決議年月日は、2006年6月29日であり、決議の内容は、取締役の報酬額を年額31,200万円以内（ただし、使用人兼務役員の使用人分給与は含まない）、監査役の報酬額を年額4,320万円以内とするものであります。

各取締役の報酬額については、取締役会決議により代表取締役社長佐藤徹及び各部門長から構成される報酬会議に委任する旨を決議し、報酬会議で決定しております。また、各監査役の報酬額は監査役会での協議により決定しております。

② 役員区分ごとの報酬額等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動 報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	116	91	25	—	13
監査役 (社外監査役を除く)	15	15	—	—	2
社外役員	15	15	—	—	4

③ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

④ 使用人兼務役員の使用人分給与のうち、重要なもの

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なものはありません。

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とした取得の場合は、純投資目的としております。なお、当社は純投資目的の投資株式は現在保有しておらず、今後も保有しない方針であります。

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、取引関係の維持・強化等を目的として、必要と判断する上場株式を保有しております。今後は、事業戦略上の重要性および取引先との関係性、評価損益、投資リターン等経済合理性等を総合的に勘案し縮減を図ってまいります。なお、保有継続の可否および保有株式数の見直しを毎年取締役会にて実施し、売却する銘柄を決定しております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	15	303
非上場株式以外の株式	38	2,360

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	—	—	—
非上場株式以外の株式	3	4	持株会による増加

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	—	—
非上場株式以外の株式	7	6

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
TOTO(株)	136,625	136,625	回転機セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	有
	641	766		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	402,550	402,550	信頼関係を維持し、資金調達の安全性を高めるため。	有
	221	280		
関西電力(株)	111,101	111,101	電力機器セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	181	151		
日本碍子(株)	96,679	96,679	安定的な資材調達に係わる協力関係の維持のため。	有
	155	177		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
九州電力(株)	101,520	101,520	電力機器セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	132	128		
東海旅客鉄道(株)	5,000	5,000	電力機器セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	128	100		
東洋シヤッター(株)	125,444	125,444	回転機セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	有
	91	78		
沖縄電力(株)	39,017	31,214	電力機器セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	73	95		
ダイハツディーゼル(株)	110,000	110,000	電力機器セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	68	95		
(株)三井住友フィナンシャルグループ	17,162	17,162	信頼関係を維持し、資金調達の安全性を高めるため。	有
	66	76		
東北電力(株)	46,431	46,431	電力機器セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	65	65		
パラマウントベッドホールディングス(株)	11,000	11,000	回転機セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	54	59		
東日本旅客鉄道(株)	5,000	5,000	電力機器セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	53	49		
東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	129,732	129,732	信頼関係を維持し、証券取引を円滑に行う。	有
	52	95		
(株)トーエネック	12,345	12,037	中電グループ会社との関係強化のため。なお、当社は発行会社の持株会に加入していることから、保有株式数が増加している。	無
	37	37		
東京電力ホールディングス(株)	50,941	50,941	電力機器セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	35	20		
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	8,631	8,631	信頼関係を維持し、資金調達の安全性を高める。	有
	34	37		
イビデン(株)	19,429	17,622	電力機器セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。なお、発行会社の持株会に加入していることから、保有株式数が増加している。	無
	32	27		
(株)明電舎	20,000	100,000	業界動向等の情報収集のため。	無
	30	40		
古河電気工業(株)	10,000	10,000	安定的な資材調達に係わる協力関係の維持のため。	有
	27	57		
東洋電機(株)	25,000	25,000	同業他社の情報収集のため。	有
	20	25		
(株)十六銀行	9,000	9,000	信頼関係を維持し、資金調達の安全性を高めるため。	有
	20	25		
(株)大垣共立銀行	8,349	8,349	信頼関係を維持し、資金調達の安全性を高めるため。	有
	19	22		
東邦瓦斯(株)	3,502	3,502	過去の取引時、協力関係構築時に取得した政策投資。	無
	17	11		
北海道電力(株)	27,330	27,330	電力機器セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	17	19		
(株)リコー	10,000	10,000	過去の取引時、協力関係構築時に取得した政策投資。	無
	11	10		
(株)指月電機製作所	18,625	18,046	安定的な資材調達に係わる協力関係の維持のため。なお、発行会社の持株会に加入していることから、保有株式数が増加している。	無
	11	13		
三菱重工業(株)	2,062	2,062	回転機セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	有
	9	8		
リンナイ(株)	1,155	1,155	過去の取引時、協力関係構築時に取得した政策投資。	無
	9	11		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
(株)愛知銀行	2,618	2,618	信頼関係を維持し、資金調達の安全性を高めるため。	有
	8	14		
黒田精工(株)	6,600	6,600	過去の取引時、協力関係構築時に取得した政策投資。	無
	8	15		
昭和電線ホールディングス(株)	11,025	11,025	安定的な資材調達に係わる協力関係の維持のため。	有
	7	10		
北陸電力(株)	6,797	6,797	電力機器セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	5	6		
(株)ワキタ	3,710	3,710	過去の取引時、協力関係構築時に取得した政策投資。	無
	4	4		
(株)テクノ菱和	2,200	2,200	過去の取引時、協力関係構築時に取得した政策投資。	無
	1	1		
パナソニック(株)	1,647	1,647	回転機セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	1	2		
富士古河 E & C (株)	480	2,400	電力機器セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	0	0		
三菱電機(株)	480	480	回転機セグメントにおける重要顧客であり、取引関係の維持、強化のため。	無
	0	0		

- (注) 1. 定量的な保有効果は個別の取引条件を開示できないため記載が困難であります。
2. 保有の合理性は銘柄毎のリスク・リターン分析等により検証し、取締役会に報告しております。
3. 当社の株式の保有の有無については、対象先の子会社が保有する場合も「有」としております。

③ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

④ 当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

⑤ 当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の財務諸表について、名古屋監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しており、同機構および各種団体が主催するセミナーへの参加や、会計専門誌等の購読を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年 3 月31日)	当連結会計年度 (2019年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,391	18,868
受取手形及び売掛金	※2 21,906	※2 20,024
電子記録債権	※2 6,295	※2 6,607
有価証券	9,438	5,799
商品及び製品	3,900	4,498
仕掛品	3,566	3,535
原材料及び貯蔵品	4,287	4,433
その他	1,031	1,180
貸倒引当金	△17	△62
流動資産合計	63,799	64,885
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※1 24,487	※1 24,558
減価償却累計額	※4 △18,451	※4 △18,916
建物及び構築物（純額）	6,036	5,642
機械装置及び運搬具	※1 26,396	※1 26,882
減価償却累計額	※4 △22,706	※4 △23,271
機械装置及び運搬具（純額）	3,689	3,610
工具、器具及び備品	9,763	9,544
減価償却累計額	※4 △8,855	※4 △8,578
工具、器具及び備品（純額）	907	965
土地	※1 4,053	※1 4,054
リース資産	883	1,021
減価償却累計額	△350	△380
リース資産（純額）	533	641
建設仮勘定	211	326
有形固定資産合計	15,431	15,241
無形固定資産	165	182
投資その他の資産		
投資有価証券	※1, ※3 5,799	※1, ※3 6,624
繰延税金資産	2,715	2,547
その他	※3 959	※3 982
貸倒引当金	△200	△306
投資その他の資産合計	9,274	9,847
固定資産合計	24,871	25,270
資産合計	88,671	90,156

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※2 13,701	※2 12,935
電子記録債務	※2 4,585	※2 6,032
短期借入金	※1 2,631	※1 2,909
1年内返済予定の長期借入金	※1 1,863	※1 2,053
リース債務	111	123
未払費用	3,056	2,952
未払法人税等	321	510
未払消費税等	74	123
その他	※2 1,393	878
流動負債合計	27,741	28,518
固定負債		
長期借入金	※1 3,404	※1 1,790
リース債務	469	571
繰延税金負債	39	50
退職給付に係る負債	5,432	5,376
その他	206	172
固定負債合計	9,552	7,962
負債合計	37,294	36,481
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,053	4,053
資本剰余金	2,208	2,072
利益剰余金	42,190	44,445
自己株式	△14	△14
株主資本合計	48,437	50,556
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,488	1,297
為替換算調整勘定	1,511	960
退職給付に係る調整累計額	△659	△570
その他の包括利益累計額合計	2,341	1,687
非支配株主持分	598	1,430
純資産合計	51,377	53,674
負債純資産合計	88,671	90,156

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4 月 1 日 至 2018年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4 月 1 日 至 2019年 3 月31日)
売上高	78,232	80,034
売上原価	※2, ※6 65,434	※2, ※6 68,706
売上総利益	12,798	11,327
販売費及び一般管理費	※1, ※2 7,662	※1, ※2 7,091
営業利益	5,135	4,235
営業外収益		
受取利息	31	36
受取配当金	114	134
固定資産賃貸料	71	51
持分法による投資利益	—	270
屑消耗品売却額	119	165
助成金収入	24	33
その他	139	127
営業外収益合計	500	819
営業外費用		
支払利息	120	116
持分法による投資損失	209	—
為替差損	123	32
支払補償費	12	—
その他	96	54
営業外費用合計	563	203
経常利益	5,073	4,852
特別利益		
固定資産売却益	※3 2	※3 3
投資有価証券売却益	17	3
ゴルフ会員権売却益	—	12
特別利益合計	20	19
特別損失		
固定資産売却損	※4 68	※4 0
固定資産除却損	※5 40	※5 9
減損損失	※7 169	—
投資有価証券評価損	—	9
関係会社出資金評価損	—	99
貸倒引当金繰入額	—	172
特別退職金	※8 41	※8 32
その他	—	0
特別損失合計	321	325
税金等調整前当期純利益	4,772	4,546
法人税、住民税及び事業税	1,464	1,149
法人税等調整額	△59	246
法人税等合計	1,404	1,396
当期純利益	3,367	3,149
非支配株主に帰属する当期純利益	15	39
親会社株主に帰属する当期純利益	3,351	3,109

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
当期純利益	3,367	3,149
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	204	△196
為替換算調整勘定	263	△582
退職給付に係る調整額	53	88
持分法適用会社に対する持分相当額	1	△0
その他の包括利益合計	※ 524	※ △691
包括利益	3,891	2,458
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,863	2,455
非支配株主に係る包括利益	28	3

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,053	2,199	40,218	△395	46,074
当期変動額					
剰余金の配当			△997		△997
親会社株主に帰属する当期純利益			3,351		3,351
自己株式の取得				△1	△1
自己株式の消却		△0	△382	382	—
連結子会社株式の取得による持分の増減		8		△0	8
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	8	1,972	381	2,362
当期末残高	4,053	2,208	42,190	△14	48,437

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,281	1,261	△712	1,830	579	48,484
当期変動額						
剰余金の配当						△997
親会社株主に帰属する当期純利益						3,351
自己株式の取得						△1
自己株式の消却						—
連結子会社株式の取得による持分の増減						8
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	207	250	53	511	19	530
当期変動額合計	207	250	53	511	19	2,893
当期末残高	1,488	1,511	△659	2,341	598	51,377

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,053	2,208	42,190	△14	48,437
当期変動額					
剰余金の配当			△854		△854
親会社株主に帰属する当期純利益			3,109		3,109
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		0		0	0
連結子会社の増資による持分の増減		△135			△135
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	△135	2,255	△0	2,119
当期末残高	4,053	2,072	44,445	△14	50,556

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,488	1,511	△659	2,341	598	51,377
当期変動額						
剰余金の配当						△854
親会社株主に帰属する当期純利益						3,109
自己株式の取得						△0
自己株式の処分						0
連結子会社の増資による持分の増減						△135
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△191	△551	88	△654	831	177
当期変動額合計	△191	△551	88	△654	831	2,297
当期末残高	1,297	960	△570	1,687	1,430	53,674

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	4,772	4,546
減価償却費	2,388	2,248
減損損失	169	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	85	156
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△1,236	60
受取利息及び受取配当金	△146	△170
支払利息	120	116
持分法による投資損益 (△は益)	209	△270
固定資産売却損益 (△は益)	66	△3
固定資産除却損	40	9
投資有価証券売却損益 (△は益)	△17	△3
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,343	858
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△981	△889
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,805	798
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△572	△5
その他	275	125
小計	4,638	7,576
利息及び配当金の受取額	146	169
持分法適用会社からの配当金の受取額	5	14
利息の支払額	△121	△109
法人税等の支払額	△2,801	△982
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,868	6,667
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	△445	△9
有価証券の増減額 (△は増加)	△138	3,629
有形固定資産の取得による支出	△1,926	△2,182
有形固定資産の売却による収入	18	5
無形固定資産の取得による支出	△28	△48
投資有価証券の取得による支出	△14	△1,042
投資有価証券の売却による収入	38	6
短期貸付けによる支出	△500	△500
短期貸付金の回収による収入	500	500
その他	2	17
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,492	375

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△739	278
長期借入れによる収入	1,100	500
長期借入金の返済による支出	△1,686	△1,923
配当金の支払額	△996	△854
非支配株主への配当金の支払額	—	△0
連結子会社増資に伴う非支配株主からの払込による収入	—	694
自己株式の増減額 (△は増加)	△1	△0
その他	△140	△107
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,464	△1,413
現金及び現金同等物に係る換算差額	92	△160
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,996	5,468
現金及び現金同等物の期首残高	15,205	12,208
現金及び現金同等物の期末残高	※ 12,208	※ 17,676

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び名称 9社

㈱愛工機器製作所、アイチエレクトク㈱、恵那愛知電機㈱、岐阜愛知電機㈱、寿工業㈱、
白鳥アイチエレクトク㈱、長野愛知電機㈱、蘇州愛知科技有限公司、蘇州愛知高斯電機有限公司

(2) 非連結子会社の名称等

①主要な会社等の名称

蘇州愛工電子有限公司

②非連結子会社を連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除いております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の数及び主要な会社等の名称 2社

愛知金属工業㈱、中部環境ソリューション(同)

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称等

①主要な会社等の名称

非連結子会社：蘇州愛工電子有限公司

関連会社：アムトラエレクトリック

②持分法を適用しない理由

持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社は、それぞれ当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち蘇州愛知科技有限公司及び蘇州愛知高斯電機有限公司の決算日は、12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

a 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

b その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております）

時価のないもの

移動平均法による原価法

②デリバティブ

時価法

③棚卸資産

製品・仕掛品

主として個別法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定しております）

商品・原材料・貯蔵品

主として移動平均法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定しております）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～60年

機械装置及び運搬具 4～17年

- ②無形固定資産（リース資産を除く）
定額法
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（５年）に基づく定額法を採用しております。
- ③リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- ④少額減価償却資産
取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、連結会計年度毎に一括して３年間で均等償却しております。
- ⑤長期前払費用
均等償却
- (3) 重要な引当金の計上基準
貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
①退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。
- ②数理計算上の差異の費用処理方法
数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による按分額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理することとしております。
- ③小規模企業等における簡便法の採用
一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- (5) 重要な収益及び費用の計上基準
完成工事高及び完成工事原価の計上基準
請負工事のうち、進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）、その他の工事については工事完成基準を適用しております。
- (6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債、収益及び費用は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。
- (7) 重要なヘッジ会計の方法
①ヘッジ会計の方法
金利スワップ取引については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。
- ②ヘッジ手段とヘッジ対象
ヘッジ手段 金利スワップ取引
ヘッジ対象 変動金利の長期借入金の金利変動リスク
- ③ヘッジ方針
金利変動リスクの回避並びに金融収支の安定化のために行っております。
- ④ヘッジ有効性評価の方法
金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の判定を省略しております。
- (8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、随時引き出し可能な預金及び取得日から３ヶ月以内に満期日の到来する定期預金からなっております。
- (9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項
消費税等の会計処理の方法
消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は当連結会計年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

- ステップ1：顧客との契約を識別する。
- ステップ2：契約における履行義務を識別する。
- ステップ3：取引価格を算定する。
- ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。
- ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」600百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」2,715百万円に含めて表示しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)		当連結会計年度 (2019年3月31日)	
建物	2,827百万円	(2,557百万円)	2,716百万円	(2,454百万円)
機械装置	419	(419)	640	(640)
土地	997	(846)	997	(846)
投資有価証券	38	(—)	34	(—)
計	4,282	(3,823)	4,388	(3,941)

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)		当連結会計年度 (2019年3月31日)	
短期借入金	1,097百万円	(1,097百万円)	1,084百万円	(1,084百万円)
1年内返済予定の長期借入金	755	(644)	1,671	(1,482)
長期借入金	2,164	(1,898)	833	(756)
計	4,017	(3,640)	3,589	(3,323)

上記のうち () 内書は工場財団抵当並びに当該債務を示しております。

※2 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当連結会計年度末日は金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
受取手形	157百万円	189百万円
電子記録債権	34	95
支払手形	627	522
電子記録債務	44	33
その他 (設備関係支払手形)	6	—

※3 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
投資有価証券 (株式)	1,675百万円	1,771百万円
その他 (出資金)	240	314

※4 減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
発送費	1,283百万円	1,382百万円
給料手当	2,525	2,544
退職給付費用	141	132
研究開発費	528	378
貸倒引当金繰入	86	—

※2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	1,096百万円	977百万円

※3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
機械装置及び運搬具	2百万円	3百万円

※4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物及び構築物	7百万円	一百万円
機械装置及び運搬具	—	0
土地	61	—
計	68	0

※5 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物及び構築物	9百万円	2百万円
機械装置及び運搬具	30	0
工具、器具及び備品	1	7
計	40	9

※6 期末たな卸高は収益性低下による簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	267百万円	166百万円

※ 7 減損損失

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

用途	場所	種類	減損損失
遊休資産	千葉県佐倉市	土地	135百万円
生産設備	岐阜県恵那市	建物及び構築物	7
		機械装置及び運搬具	26
		工具、器具及び備品	0
		計	34

当社グループでは、事業資産は管理会計上の区分を基準に、賃貸用資産及び遊休資産は個別物件単位で、資産のグルーピングを行っております。

千葉県佐倉市の土地につきましては、当連結会計年度に遊休化したことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、回収可能価額は、公示地価に基づいた合理的な見積額を使用しております。

岐阜県恵那市の生産設備につきましては、寿工業(株)恵那工場の製造・販売事業において収益性の低下により投資の回収が見込めなくなったため、その帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、回収可能価額は、使用価値に基づいておりますが、キャッシュフローがマイナスのため備忘価額としております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

※ 8 特別退職金

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

当連結会計年度において、期間社員に対して、早期退職による退職金を支払ったものであります。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当連結会計年度において、期間社員に対して、早期退職による退職金を支払ったものであります。

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年 4 月 1 日 至 2018年 3 月 31 日)	当連結会計年度 (自 2018年 4 月 1 日 至 2019年 3 月 31 日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	292百万円	△292百万円
組替調整額	2	0
税効果調整前	295	△292
税効果額	△90	95
その他有価証券評価差額金	204	△196
為替換算調整勘定		
当期発生額	263	△582
為替換算調整勘定	263	△582
退職給付に係る調整額		
当期発生額	△20	44
組替調整額	89	71
税効果調整前	69	116
税効果額	△15	△27
退職給付に係る調整額	53	88
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	1	△0
その他の包括利益合計	524	△691

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年 4 月 1 日 至 2018年 3 月 31 日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(千株)	増加株式数(千株)	減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式 普通株式	9,650	—	150	9,500
自己株式 普通株式	159	0	150	9

- (注) 1. 発行済株式総数の減少150千株は、自己株式の消却によるものであります。
2. 自己株式の増加は、単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。
3. 自己株式の減少は、消却による減少150千株であります。

2. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年 6 月 29 日 定時株主総会	普通株式	617	65.00	2017年 3 月 31 日	2017年 6 月 30 日
2017年 10 月 31 日 取締役会	普通株式	379	40.00	2017年 9 月 30 日	2017年 12 月 5 日

(注) 2017年 6 月 29 日定時株主総会決議の 1 株当たり配当額には、創立75周年記念配当金25円を含んでおります。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年 6 月 28 日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	427	45.00	2018年 3 月 31 日	2018年 6 月 29 日

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(千株)	増加株式数(千株)	減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式 普通株式	9,500	—	—	9,500
自己株式 普通株式	9	0	0	9

(注) 1. 自己株式の増加は、単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。
2. 自己株式の減少は、単元未満株式の買増請求による減少0千株であります。

2. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	427	45.00	2018年3月31日	2018年6月29日
2018年10月31日 取締役会	普通株式	427	45.00	2018年9月30日	2018年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	427	45.00	2019年3月31日	2019年6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	13,391百万円	18,868百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△1,182	△1,192
現金及び現金同等物	12,208	17,676

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

①リース資産の内容

有形固定資産

主として、電力機器事業における太陽光発電設備であります。

②リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針であります。デリバティブ取引については、金利変動リスクの回避並びに金融収支の安定化のため金利スワップ取引を利用し、また、外貨建金銭債権債務の為替変動リスクを回避する目的で為替予約を利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理及び残高照合を行うとともに、年度末に残高確認を行っております。

投資有価証券は主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されています。当該リスクに関しては、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は、主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、長期借入金の一部については、金利変動リスクの回避並びに金融収支の安定化のため、金利スワップ取引をヘッジ手段として利用しております。ヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定を省略しております。

金利スワップ取引については、市場金利の変動リスクを有し、為替予約取引は、為替相場の変動リスクを有しております。なお、取引の契約先は、信用度の高い金融機関であり、信用リスクはほとんどないと判断しております。また、金利スワップ取引については、社内の規定に従い、決裁権限者の承認を受け管理部門にて行っております。為替予約取引については、社内の規定に従い、決裁権限者の承認を受け営業部門又は購買部門にて行われ、その都度、管理部門に報告されております。

営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、適時に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（(注)2を参照ください）。

前連結会計年度（2018年3月31日）

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	13,391	13,391	—
(2) 受取手形及び売掛金	21,906	21,906	—
(3) 電子記録債権	6,295	6,295	—
(4) 有価証券 その他有価証券	9,438	9,438	—
(5) 投資有価証券 その他有価証券	3,985	3,985	—
資産計	55,017	55,017	—
(1) 支払手形及び買掛金	13,701	13,701	—
(2) 電子記録債務	4,585	4,585	—
(3) 短期借入金	2,631	2,631	—
(4) 長期借入金	5,267	5,288	20
(5) リース債務	581	583	1
負債計	26,768	26,790	22
デリバティブ取引（※）	(0)	(0)	—

(※) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で表示しております。

当連結会計年度（2019年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	18,868	18,868	—
(2) 受取手形及び売掛金	20,024	20,024	—
(3) 電子記録債権	6,607	6,607	—
(4) 有価証券			
その他有価証券	5,799	5,799	—
(5) 投資有価証券			
満期保有目的の債券	1,028	1,011	△17
その他有価証券	3,692	3,692	—
資産計	56,022	56,004	△17
(1) 支払手形及び買掛金	12,935	12,935	—
(2) 電子記録債務	6,032	6,032	—
(3) 短期借入金	2,909	2,909	—
(4) 長期借入金	3,844	3,861	16
(5) リース債務	695	691	△4
負債計	26,416	26,428	12
デリバティブ取引（※）	5	5	—

（※） デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で表示しております。

（注）１．金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、並びに (3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券、並びに (5) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。債券は、市場価格がある場合は、取引所の価格によっており、市場価格がない場合は、取引金融機関等から提示された価格又は合理的に算定された価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、並びに (3) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金、並びに (5) リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入又は、リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

なお、長期借入金及びリース債務には、１年以内に返済予定のものを含めて記載しております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

（注）２．時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：百万円）

区分	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
非上場株式	137	130

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「資産(5)投資有価証券」に含めておりません。

(注) 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度 (2018年 3 月31日)

(単位：百万円)

	1 年以内	1 年超 5 年以内	5 年超 10 年以内	10 年超
現金及び預金	13,391	—	—	—
受取手形及び売掛金	21,906	—	—	—
電子記録債権	6,295	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの NCD・CP等	9,438	—	—	—
合計	51,031	—	—	—

当連結会計年度 (2019年 3 月31日)

(単位：百万円)

	1 年以内	1 年超 5 年以内	5 年超 10 年以内	10 年超
現金及び預金	18,868	—	—	—
受取手形及び売掛金	20,024	—	—	—
電子記録債権	6,607	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券 (社債)	—	500	500	—
その他有価証券のうち満期があるもの NCD・CP等	5,800	—	—	—
合計	51,300	500	500	—

(注) 4. 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度 (2018年 3 月31日)

(単位：百万円)

	1 年以内	1 年超 2 年以内	2 年超 3 年以内	3 年超 4 年以内	4 年超 5 年以内	5 年超
短期借入金	2,631	—	—	—	—	—
長期借入金	1,863	1,951	575	370	206	300
リース債務	111	96	70	59	34	207
合計	4,606	2,047	646	430	241	507

当連結会計年度 (2019年 3 月31日)

(単位：百万円)

	1 年以内	1 年超 2 年以内	2 年超 3 年以内	3 年超 4 年以内	4 年超 5 年以内	5 年超
短期借入金	2,909	—	—	—	—	—
長期借入金	2,053	677	472	308	182	150
リース債務	123	99	87	63	35	285
合計	5,086	776	560	372	217	435

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度 (2018年 3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度 (2019年 3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの			
①国債・地方債等	—	—	—
②社債	—	—	—
③その他	—	—	—
小計	—	—	—
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの			
①国債・地方債等	—	—	—
②社債	1,028	1,011	△17
③その他	—	—	—
小計	1,028	1,011	△17
合計	1,028	1,011	△17

2. その他有価証券

前連結会計年度 (2018年 3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
①株式	3,557	1,382	2,174
②債券	—	—	—
③その他	36	18	18
小計	3,594	1,401	2,193
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
①株式	292	348	△55
②債券	—	—	—
③その他	9,536	9,538	△1
小計	9,829	9,886	△57
合計	13,424	11,287	2,136

当連結会計年度 (2019年 3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
①株式	3,238	1,349	1,888
②債券	—	—	—
③その他	32	18	13
小計	3,270	1,368	1,902
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
①株式	325	381	△55
②債券	—	—	—
③その他	5,896	5,900	△3
小計	6,222	6,281	△59
合計	9,492	7,649	1,843

3. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
①株式	38	17	—
②債券	—	—	—
③その他	—	—	—
合計	38	17	—

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
①株式	6	3	0
②債券	—	—	—
③その他	—	—	—
合計	6	3	0

4. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について9百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理に当たっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度 (2018年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	種類	契約額等	契約額等のうち 1 年超	時価	評価損益
市場取引以外 の取引	為替予約取引 買建 米ドル	16	—	△0	△0
合計		16	—	△0	△0

(注) 時価の算定方法

取引金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度 (2019年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	種類	契約額等	契約額等のうち 1 年超	時価	評価損益
市場取引以外 の取引	為替予約取引 売建 米ドル	889	—	5	5
	買建 米ドル	13	—	△0	△0
合計		903	—	5	5

(注) 時価の算定方法

取引金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度 (2018年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の 方法	デリバティブ 取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち 1 年超	時価
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	2,906	2,379	(※)

(※) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度 (2019年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の 方法	デリバティブ 取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち 1 年超	時価
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	2,379	1,008	(※)

(※) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

確定給付企業年金制度（すべて積立型制度であります）では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。また、確定給付企業年金制度は、一部の連結子会社が採用しており、全て簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

退職一時金制度（非積立型制度であります）が、退職給付信託を設定した結果、積立型制度となっているものがあります）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。また、一部の連結子会社が採用する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く）

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	7,062百万円	7,519百万円
勤務費用	329	344
利息費用	28	29
数理計算上の差異の発生額	△6	48
退職給付の支払額	△213	△365
合併による簡便法から原則法への移行に伴う影響額	282	—
その他	36	32
退職給付債務の期末残高	7,519	7,609

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く）

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
年金資産の期首残高	2,002百万円	3,490百万円
期待運用収益	18	31
数理計算上の差異の発生額	△29	93
事業主からの拠出額	1,500	—
退職給付の支払額	—	—
年金資産の期末残高	3,490	3,615

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	1,678百万円	1,403百万円
退職給付費用	117	105
退職給付の支払額	△88	△108
制度への拠出額	△20	△18
合併による簡便法から原則法への移行に伴う影響額	△282	—
退職給付に係る負債の期末残高	1,403	1,382

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	6,747百万円	6,802百万円
年金資産	△3,793	△3,915
	2,954	2,887
非積立型制度の退職給付債務	2,478	2,489
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,432	5,376
退職給付に係る負債	5,432	5,376
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,432	5,376

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
勤務費用	329百万円	344百万円
利息費用	28	29
期待運用収益	△18	△31
数理計算上の差異の費用処理額	89	71
簡便法で計算した退職給付費用	117	105
その他	36	32
確定給付制度に係る退職給付費用	583	552

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
数理計算上の差異	69百万円	116百万円

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
未認識数理計算上の差異	869百万円	752百万円

(8) 年金資産に関する事項

①年金資産の主な内訳

年金資産に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
債券	100%	100%

(注) 年金資産は、退職一時金制度に対して設定した退職給付信託であります。

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております）

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
割引率	0.4%	0.4%
長期期待運用収益率	0.9	0.9
予想昇給率	6.5	6.5

3. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度40百万円、当連結会計年度40百万円であります。

前連結会計年度において、要拠出額を退職給付費用として処理していた日本電子回路厚生年金基金は、2018年3月31日付で解散しており、年金資産については企業型確定拠出年金へ移管しております。

なお、前連結会計年度において、上記制度における過去勤務債務の特別掛金（前連結会計年度1百万円）は、費用処理しております。

（税効果会計関係）

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
未払賞与	272百万円	264百万円
退職給付に係る負債	1,698	1,680
退職給付信託設定額	1,067	1,075
資産に係る未実現利益調整額	385	380
繰越欠損金	494	177
その他	663	684
繰延税金資産小計	4,581	4,262
評価性引当額(△)	△1,005	△933
繰延税金資産合計	3,575	3,328
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	△120	△119
特別償却準備金	△108	△137
その他有価証券評価差額金	△635	△539
その他	△35	△35
繰延税金負債合計	△899	△831
繰延税金資産の純額	2,676	2,496

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

(子会社の増資)

2019年3月1日付で、連結子会社である蘇州愛知高斯電機有限公司が、新工場建設を目的とした第三者割当増資を実施し、連結子会社であるアイチエレクト株式会社と合併パートナー1社が出資しております。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称：蘇州愛知高斯電機有限公司（当社の連結子会社）

事業の内容：電動コンプレッサ用モータ、駆動用モータの製造、販売

(2) 企業結合日

2019年3月1日

(3) 企業結合の法的形式

結合当事企業が実施する第三者割当増資の引受

(4) 結合後企業の名称

変更ありません。

(5) 増資金額

2,778百万円

上記金額のうち、連結子会社であるアイチエレクト株式会社が2,083百万円を出資しております。

(6) その他取引の概要に関する事項

当社グループの出資比率は、この増資引受により55.0%から66.0%となりました。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

3. 非支配株主との取引に係る当社の持分変動に関する事項

(1) 資本剰余金の主な変動要因

結合当事企業が実施する第三者割当増資による持分変動

(2) 非支配株主との取引によって減少した資本剰余金の金額

135百万円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、事業部制を採用しており、国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。従って、当社は、事業部を基礎とした製品別のセグメントから構成されており、「電力機器」及び「回転機」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「電力機器」は、各種変圧器、制御機器等の製造販売及び電力設備工事等を行っております。

「回転機」は、小型モータ、アクチュエータ、シャッター開閉機、プリント配線板等の製造販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	電力機器	回転機	計
売上高			
外部顧客への売上高	31,563	46,668	78,232
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	31,563	46,668	78,232
セグメント利益	5,062	1,723	6,786
セグメント資産	25,913	45,201	71,114
その他の項目			
減価償却費	816	1,460	2,277
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	466	1,498	1,964

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	電力機器	回転機	計
売上高			
外部顧客への売上高	29,319	50,714	80,034
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	29,319	50,714	80,034
セグメント利益	4,114	1,664	5,778
セグメント資産	24,490	49,807	74,297
その他の項目			
減価償却費	731	1,429	2,160
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	421	1,818	2,240

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	6,786	5,778
全社費用(注)	△1,650	△1,542
連結財務諸表の営業利益	5,135	4,235

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(単位：百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	71,114	74,297
全社資産(注)	17,557	15,859
連結財務諸表の資産合計	88,671	90,156

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社での管理部門に係る資産等であります。

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額(注)		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	2,277	2,160	57	56	2,334	2,216
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,964	2,240	53	30	2,017	2,271

(注) 減価償却費並びに有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、親会社本社での管理部門に係るものであります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	その他	合計
58,624	18,366	1,242	78,232

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	中国	合計
13,142	2,289	15,431

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
中部電力㈱	19,004	電力機器

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	その他	合計
58,025	20,558	1,450	80,034

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	中国	合計
12,906	2,334	15,241

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
中部電力㈱	18,400	電力機器

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			全社・消去	合計
	電力機器	回転機	計		
減損損失	—	34	34	135	169

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

会社の名称 (種類)	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の 被所有割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
中部電力㈱ (その他の 関係会社)	名古屋市 東区	430,777	電気事業	直接 24.57	当社製品の 販売先 役員の兼任	変圧器等 の販売	17,915	売掛金	2,985

(注) 1. 取引金額には消費税等を含まず、期末残高には消費税等を含んでおります。

2. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案し交渉の上、決定しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

会社の名称 (種類)	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の 被所有割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
中部電力㈱ (その他の 関係会社)	名古屋市 東区	430,777	電気事業	直接 24.57	当社製品の 販売先 役員の兼任	変圧器等 の販売	17,317	売掛金	3,419

(注) 1. 取引金額には消費税等を含まず、期末残高には消費税等を含んでおります。

2. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案し交渉の上、決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	5,350.33円	5,504.79円
1株当たり当期純利益	353.18円	327.66円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	3,351	3,109
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	3,351	3,109
普通株式の期中平均株式数(千株)	9,491	9,490

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	51,377	53,674
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	598	1,430
(うち非支配株主持分(百万円))	(598)	(1,430)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	50,778	52,244
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数(千株)	9,490	9,490

(重要な後発事象)

共通支配下の取引等

(子会社の出資持分の取得)

2019年4月19日付で、連結子会社である蘇州愛知高斯電機有限公司の昆山海峡發展基金の出資持分を経営判断の迅速化に繋がることから連結子会社であるアイチエレクト株式会社を取得いたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称：蘇州愛知高斯電機有限公司（当社の連結子会社）

事業の内容：電動コンプレッサ用モータ、駆動用モータの製造、販売

(2) 企業結合日

2019年4月19日

(3) 企業結合の法的形式

非支配株主持分からの出資金取得

(4) 結合後企業の名称

変更ありません。

(5) その他取引の概要に関する事項

当社グループの出資比率は、この出資金取得により66.0%から75.0%となります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引のうち、非支配株主の取引として処理します。

3. 子会社出資金の追加取得に関する事項

取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	458百万円
取得原価		458百万円

4. 非支配株主との取引に係る当社の持分変動に関する事項

(1) 資本剰余金の主な変動要因

子会社出資金の追加取得

(2) 非支配株主との取引によって増減する資本剰余金の金額

現在調査中であり、未確定であります。

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2019年5月17日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるアイチエレクト株式会社（以下、「アイチエレクト」という）を吸収合併することを決議し、同日付で合併契約を締結いたしました。

1. 合併の目的

アイチエレクトは、当社グループにおけるハーメティックモータの製造・販売の役割を担ってきました。当社がアイチエレクトを吸収合併することで、経営資源の集約による効率的な事業運営とグループモータ事業の集約・一体化による開発・生産・品質機能を強化することが目的であります。

なお、アイチエレクトの直近期の売上高等については、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しております。

2. 合併の要旨

(1) 合併の日程

取締役会決議日 2019年5月17日

合併契約締結日 2019年5月17日

実施予定日（効力発生日） 2020年4月1日

※本合併は、当社においては会社法第796条第2項に規定する簡易合併であり、アイチエレクトにおいては会社法第784条第1項に規定する略式合併であるため、株主総会の承認を得ずに実施するものであります。

(2) 合併の方式

当社を存続会社とする吸収合併方式で、アイチエレクトは解散します。

(3) 合併後の会社の名称

変更ありません。

(4) 合併に係る割当ての内容

本合併による株式その他の金銭等の割当てはありません。

(5) 消滅会社の新株予約権及び新株予約権付社債に関する取扱い

アイチエレクトは、新株予約権及び新株予約権付社債を発行しておりません。

3. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として会計処理を実施する予定であります。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,631	2,909	1.58	—
1年内返済予定の長期借入金	1,863	2,053	1.13	—
1年以内に返済予定のリース債務	111	123	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く）	3,404	1,790	1.29	2020年4月～ 2025年3月
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く）	469	571	—	2020年4月～ 2035年12月
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	8,481	7,448	—	—

(注) 1. 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く）の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	677	472	308	182
リース債務	99	87	63	35

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	19,803	38,917	58,623	80,034
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,249	2,392	3,775	4,546
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	824	1,640	2,615	3,109
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	86.86	172.87	275.61	327.66

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	86.86	86.01	102.74	52.05

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,709	6,456
受取手形	※2, ※4 1,260	※2, ※4 1,132
電子記録債権	※4 587	※2, ※4 999
売掛金	※2 9,659	※2 7,722
有価証券	9,299	5,799
商品及び製品	1,428	1,744
仕掛品	2,714	2,447
原材料及び貯蔵品	1,499	1,469
前渡金	60	109
前払費用	19	17
未収入金	28	16
短期貸付金	1,650	3,077
その他	16	11
貸倒引当金	△0	△29
流動資産合計	33,933	30,975
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 10,568	※1 10,526
減価償却累計額	△8,280	△8,384
建物（純額）	2,287	2,141
構築物	1,525	1,531
減価償却累計額	△1,309	△1,343
構築物（純額）	215	188
機械及び装置	11,381	11,284
減価償却累計額	△10,156	△10,280
機械及び装置（純額）	1,224	1,003
車両運搬具	259	262
減価償却累計額	△224	△221
車両運搬具（純額）	34	40
工具、器具及び備品	5,071	4,761
減価償却累計額	△4,695	△4,395
工具、器具及び備品（純額）	376	365
土地	※1 3,027	※1 3,028
リース資産	417	542
減価償却累計額	△104	△135
リース資産（純額）	313	406
建設仮勘定	10	45
有形固定資産合計	7,490	7,221
無形固定資産		
ソフトウェア	13	30
電話加入権	12	12
リース資産	10	6
無形固定資産合計	36	48

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	3,096	3,821
関係会社株式	6,178	6,227
関係会社出資金	1,459	1,376
関係会社長期貸付金	655	3,145
破産更生債権等	3	3
長期前払費用	14	3
繰延税金資産	1,489	1,530
その他	140	132
貸倒引当金	△85	△219
投資その他の資産合計	12,951	16,020
固定資産合計	20,478	23,290
資産合計	54,411	54,265
負債の部		
流動負債		
支払手形	※2, ※4 757	※4 778
電子記録債務	※2 4,763	※2 4,973
買掛金	※2 3,803	※2 2,744
短期借入金	※1 750	※1 750
1年内返済予定の長期借入金	—	※1 1,000
リース債務	36	42
未払金	144	70
未払費用	1,585	1,463
未払法人税等	129	269
未払消費税等	—	78
前受金	310	79
預り金	47	36
設備関係支払手形	※4 6	2
その他	100	68
流動負債合計	12,436	12,356
固定負債		
長期借入金	※1 1,000	—
リース債務	309	401
退職給付引当金	1,870	1,909
その他	162	129
固定負債合計	3,342	2,440
負債合計	15,778	14,797

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,053	4,053
資本剰余金		
資本準備金	2,199	2,199
その他資本剰余金	—	0
資本剰余金合計	2,199	2,199
利益剰余金		
利益準備金	812	812
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	274	272
別途積立金	18,500	18,500
繰越利益剰余金	11,551	12,551
利益剰余金合計	31,138	32,135
自己株式	△10	△10
株主資本合計	37,380	38,377
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,252	1,090
評価・換算差額等合計	1,252	1,090
純資産合計	38,632	39,467
負債純資産合計	54,411	54,265

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年 4 月 1 日 至 2018年 3 月31日)	当事業年度 (自 2018年 4 月 1 日 至 2019年 3 月31日)
売上高		
製品売上高	33,812	31,774
商品売上高	3,640	3,190
売上高合計	※1 37,453	※1 34,964
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	1,049	1,428
当期製品製造原価	26,966	26,221
当期商品仕入高	3,191	2,660
合計	31,207	30,311
他勘定振替高	※5 △406	※5 2
商品及び製品期末たな卸高	1,428	1,744
売上原価合計	※2 30,184	※2 28,564
売上総利益	7,269	6,399
販売費及び一般管理費	※4 3,763	※4 3,912
営業利益	3,506	2,487
営業外収益		
受取利息	※3 3	※3 7
受取配当金	※3 228	※3 328
固定資産賃貸料	※3 157	※3 130
業務受託料	※3 44	※3 42
為替差益	—	16
その他	74	56
営業外収益合計	509	582
営業外費用		
支払利息	22	22
固定資産賃貸費用	36	26
支払補償費	8	—
為替差損	1	—
その他	12	15
営業外費用合計	81	64
経常利益	3,933	3,005
特別利益		
固定資産売却益	※6 0	※6 2
投資有価証券売却益	—	3
ゴルフ会員権売却益	—	12
抱合せ株式消滅差益	508	—
特別利益合計	508	18
特別損失		
固定資産除却損	※7 4	※7 1
投資有価証券評価損	—	9
関係会社出資金評価損	105	99
貸倒引当金繰入額	—	172
特別退職金	※8 41	※8 32
その他	—	0
特別損失合計	150	317
税引前当期純利益	4,291	2,706
法人税、住民税及び事業税	1,121	818
法人税等調整額	15	36
法人税等合計	1,137	854
当期純利益	3,154	1,851

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
						固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	4,053	2,199	0	2,199	812	174	18,500	9,780	29,267
当期変動額									
剰余金の配当								△997	△997
固定資産圧縮積立金の取崩						△2		2	—
当期純利益								3,154	3,154
自己株式の取得									
自己株式の消却			△0	△0				△382	△382
合併による増減						102		△5	96
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	—	—	△0	△0	—	99	—	1,771	1,871
当期末残高	4,053	2,199	—	2,199	812	274	18,500	11,551	31,138

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△391	35,128	1,054	1,054	36,182
当期変動額					
剰余金の配当		△997			△997
固定資産圧縮積立金の取崩		—			—
当期純利益		3,154			3,154
自己株式の取得	△1	△1			△1
自己株式の消却	382	—			—
合併による増減		96	43	43	139
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			154	154	154
当期変動額合計	381	2,252	198	198	2,450
当期末残高	△10	37,380	1,252	1,252	38,632

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
						固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	4, 053	2, 199	—	2, 199	812	274	18, 500	11, 551	31, 138
当期変動額									
剰余金の配当								△854	△854
固定資産圧縮積立金の取崩						△2		2	—
当期純利益								1, 851	1, 851
自己株式の取得									
自己株式の処分			0	0					
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	—	—	0	0	—	△2	—	999	997
当期末残高	4, 053	2, 199	0	2, 199	812	272	18, 500	12, 551	32, 135

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△10	37,380	1,252	1,252	38,632
当期変動額					
剰余金の配当		△854			△854
固定資産圧縮積立金の取崩		—			—
当期純利益		1,851			1,851
自己株式の取得	△0	△0			△0
自己株式の処分	0	0			0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			△161	△161	△161
当期変動額合計	△0	997	△161	△161	835
当期末残高	△10	38,377	1,090	1,090	39,467

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

- (1) 満期保有目的の債券
償却原価法(定額法)
- (2) 子会社株式及び関連会社株式
移動平均法による原価法
- (3) その他有価証券
 - ①時価のあるもの
決算日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております)
 - ②時価のないもの
移動平均法による原価法

2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

デリバティブ
時価法

3. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- (1) 製品・仕掛品
個別法による原価法
(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定しております)
- (2) 商品・原材料・貯蔵品
移動平均法による原価法
(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定しております)

4. 固定資産の減価償却の方法

- (1) 有形固定資産(リース資産を除く)
定率法を採用しております。ただし、建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法を採用しております。
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3～50年
機械及び装置	4～17年
- (2) 無形固定資産(リース資産を除く)
定額法
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。
- (3) リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (4) 少額減価償却資産
取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、事業年度毎に一括して3年間で均等償却しております。
- (5) 長期前払費用
均等償却

5. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
 - ①退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。
 - ②数理計算上の差異の費用処理方法
数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(15年)による按分額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

6. 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

請負工事のうち、進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

7. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップ取引については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	金利スワップ取引
ヘッジ対象	変動金利の長期借入金の金利変動リスク

(3) ヘッジ方針

金利変動リスクの回避並びに金融収支の安定化のために行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の判定を省略しております。

8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理の方法

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は当事業年度の費用として処理しております。

（表示方法の変更）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」401百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」1,530百万円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)		当事業年度 (2019年3月31日)	
建物	2,089百万円	(2,089百万円)	1,936百万円	(1,936百万円)
土地	368	(368)	368	(368)
計	2,458	(2,458)	2,305	(2,305)

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)		当事業年度 (2019年3月31日)	
短期借入金	600百万円	(600百万円)	600百万円	(600百万円)
1年内返済予定の長期借入金	—	(—)	900	(900)
長期借入金	900	(900)	—	(—)
㈱愛工機器製作所の金融機関 からの借入金				
短期借入金	100	(100)	100	(100)
1年内返済予定の長期借入金	79	(79)	50	(50)
長期借入金	125	(125)	75	(75)
計	1,805	(1,805)	1,725	(1,725)

上記のうち () 内書は工場財団抵当並びに当該債務を示しております。

※2 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
受取手形	11百万円	4百万円
電子記録債権	—	4
売掛金	3,029	3,465
支払手形	70	—
電子記録債務	781	579
買掛金	478	447

3 保証債務

下記子会社の金融機関からの借入金に対して債務保証を行っております。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
恵那愛知電機㈱	50百万円	一百万円

※4 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当事業年度の期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
受取手形	116百万円	160百万円
電子記録債権	28	49
支払手形	79	124
設備関係支払手形	6	—

(損益計算書関係)

※1 関係会社に対する売上高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	18,770百万円	17,546百万円

※2 関係会社に対する営業費用は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上原価(仕入高)	5,310百万円	4,306百万円

※3 関係会社に対する営業外収益は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
受取利息	2百万円	4百万円
受取配当金	146	232
固定資産賃貸料	96	89
業務受託料	44	42

※4 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
発送費	487百万円	562百万円
給料手当	1,494	1,635
退職給付費用	105	111
減価償却費	130	133
おおよその割合		
販売費	45%	49%
一般管理費	55	51

※5 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
製造経費	0百万円	1百万円
合併による商品及び製品増加高	△406	—
その他	0	0
計	△406	2

※6 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
車両運搬具	0百万円	2百万円

※7 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物	3百万円	1百万円
構築物	0	0
機械及び装置	0	0
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	0	0
計	4	1

※8 特別退職金

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

当事業年度において、期間社員に対して、早期退職による退職金を支払ったものであります。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当事業年度において、期間社員に対して、早期退職による退職金を支払ったものであります。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は、子会社株式5,797百万円、関連会社株式57百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は、子会社株式5,797百万円、関連会社株式57百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
未払賞与	162百万円	147百万円
退職給付引当金	570	582
退職給付信託設定額	1,067	1,075
その他	505	541
繰延税金資産小計	2,305	2,346
評価性引当額(△)	△140	△218
繰延税金資産合計	2,165	2,127
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	△120	△119
その他有価証券評価差額金	△519	△442
その他	△35	△35
繰延税金負債合計	△675	△597
繰延税金資産の純額	1,489	1,530

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.7%	—%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.5	—
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△4.7	—
住民税均等割等	0.4	—
スケジューリング不能差異	△0.0	—
その他	△0.4	—
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.5	—

(注) 当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(重要な後発事象)

共通支配下の取引等

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2019年5月17日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるアイチエレクト株式会社を吸収合併することを決議し、同日付で合併契約を締結いたしました。

詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(重要な後発事象)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	10,568	31	73	10,526	8,384	176	2,141
構築物	1,525	7	0	1,531	1,343	34	188
機械及び装置	11,381	111	208	11,284	10,280	332	1,003
車両運搬具	259	25	22	262	221	17	40
工具、器具及び 備品	5,071	194	504	4,761	4,395	205	365
土地	3,027	0	—	3,028	—	—	3,028
リース資産	417	125	—	542	135	31	406
建設仮勘定	10	118	83	45	—	—	45
有形固定資産計	32,262	615	893	31,983	24,761	797	7,221
無形固定資産							
ソフトウェア	52	23	28	47	17	7	30
電話加入権	12	—	—	12	—	—	12
リース資産	31	—	—	31	25	3	6
無形固定資産計	96	23	28	91	43	11	48
長期前払費用	14	—	10	4	0	0	3

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	86	174	5	6	248

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、回収によるもの5百万円、一般債権の洗替によるもの1百万円であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、名古屋市において発行する中日新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.aichidenki.jp
株主に対する特典	毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された100株（1単元）以上を保有する株主に対し、一律3,000円相当のカタログギフトを贈呈いたします。

（注） 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | | | |
|-----|--|-----------------|-------------------------------|-------------------------|
| (1) | 有価証券報告書
及びその添付書類
並びに確認書 | 事業年度
(第109期) | 自 2017年4月1日
至 2018年3月31日 | 2018年6月28日
東海財務局長に提出 |
| (2) | 内部統制報告書及びその添付書類 | | | 2018年6月28日
東海財務局長に提出 |
| (3) | 四半期報告書
及び確認書 | (第110期第1四半期) | 自 2018年4月1日
至 2018年6月30日 | 2018年8月10日
東海財務局長に提出 |
| | | (第110期第2四半期) | 自 2018年7月1日
至 2018年9月30日 | 2018年11月9日
東海財務局長に提出 |
| | | (第110期第3四半期) | 自 2018年10月1日
至 2018年12月31日 | 2019年2月14日
東海財務局長に提出 |
| (4) | 臨時報告書 | | | |
| | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書 | | | 2018年7月3日
東海財務局長に提出 |
| | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第7号の3（吸収合併に関する事項）の規定に基づく臨時報告書 | | | 2019年5月20日
東海財務局長に提出 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月26日

愛知電機株式会社
取締役会 御中

名古屋監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 今 井 清 博 ㊞

業務執行社員 公認会計士 市 川 泰 孝 ㊞

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている愛知電機株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、愛知電機株式会社及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、愛知電機株式会社の2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、愛知電機株式会社が2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- ※ 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月26日

愛知電機株式会社
取締役会 御中

名古屋監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 今 井 清 博 ㊞

業務執行社員 公認会計士 市 川 泰 孝 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている愛知電機株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第110期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、愛知電機株式会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は2019年5月17日開催の取締役会において、連結子会社であるアイチエレック株式会社を吸収合併することを決議し、同日付で合併契約を締結している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※ 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象に含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2019年6月27日
【会社名】	愛知電機株式会社
【英訳名】	AICHI ELECTRIC CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 徹
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	愛知県春日井市愛知町1番地
【縦覧に供する場所】	愛知電機株式会社 東京支社 (東京都中央区入船三丁目10番9号)
	愛知電機株式会社 関西支社 (大阪市北区堂島浜一丁目4番4号)
	株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

当社代表取締役社長 佐藤 徹は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である2019年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、当事業年度の財務報告に係る内部統制の評価計画に基づき、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社並びに連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しております。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社並びに連結子会社9社及び持分法適用会社2社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2／3に達している4事業拠点を「重要な事業拠点」といたしました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金、棚卸資産、買掛金、有形固定資産及び人件費に至る業務プロセスを評価の対象としました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2019年6月27日
【会社名】	愛知電機株式会社
【英訳名】	AICHI ELECTRIC CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 徹
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	愛知県春日井市愛知町1番地
【縦覧に供する場所】	愛知電機株式会社 東京支社 (東京都中央区入船三丁目10番9号) 愛知電機株式会社 関西支社 (大阪市北区堂島浜一丁目4番4号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 佐藤 徹は、当社の第110期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。